

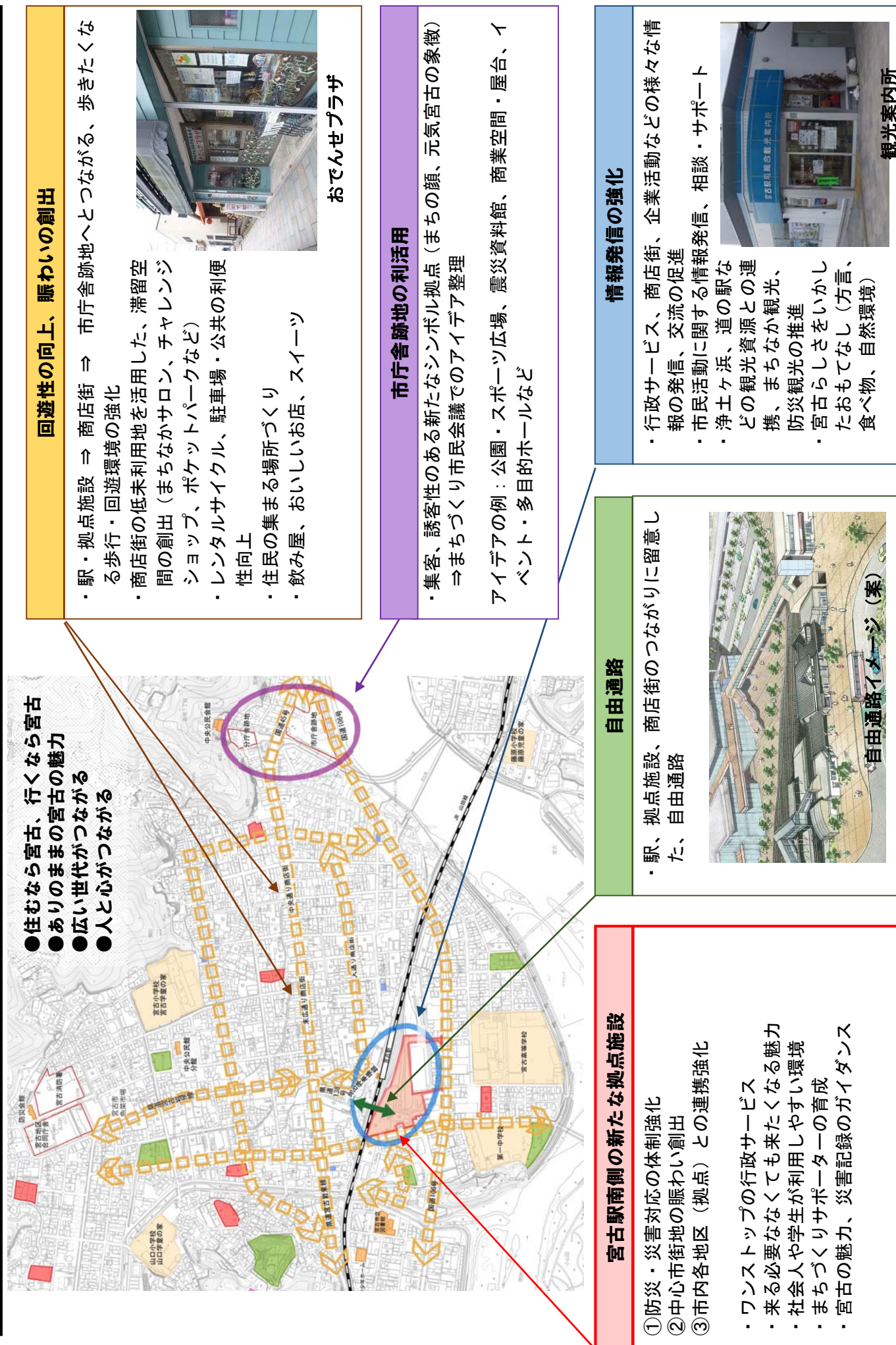
資料1 事業に関連する主な長期計画等（抜粋）

名称及び策定期間	主な内容
宮古市総合計画 ・後期基本計画（案） 【平成27年3月策定 予定】	<p>第2編 部門別計画</p> <p>第1章 三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成</p> <p>第6 賑わいのある市街地の形成（現状）</p> <p>○道路、公園、交流拠点などの都市基盤施設の整備が立ち遅れているほか、東日本大震災により、中心市街地地区周辺の公益的施設が甚大な被害を受けており、早期の復旧が必要です。また、震災復旧により、居住地区や商業施設、公益的施設などの分布が変わり、人の流れも変わるなど、コミュニティ※¹機能や地域活力の維持・低下が懸念されます。</p> <p>○宮古駅の周辺においては、市街地の中心地区としての機能や広域交通の結節機能の強化が期待されています。</p> <p>○市街地においては人口の減少が進んでおり、また、自家用自動車の普及や大型小売店の郊外立地などにより空き店舗・空き地が増加しています。</p> <p>（課題）</p> <p>○被災した公益的施設を早期に復旧するとともに、津波をはじめとする大規模な災害が発生しても、必要な都市機能が維持可能な防災・災害対応の拠点となる施設の整備が必要です。</p> <p>○宮古駅周辺は交通、交流の拠点であり、市街地の中心地区でもあることから、機能性、利便性、コミュニティ性の高い公益的施設及び基盤整備が必要です。</p> <p>○市街地において便利で暮らしやすい住環境の整備とともに、安心して居住できるよう防災機能の強化が必要です。</p> <p>○市街地における回遊性を向上させるような施設の整備や取組み、商業機能の充実を図るなど、市街地に賑わいを創り出し、波及させるようなまちづくりが必要です。</p> <p>○復興まちづくり計画における各種事業※²の市街地への影響や変化を検証し、市民の意見を取り入れながらまちづくりを進めることが必要です。</p> <p>※1 コミュニティ</p> <p>住民相互の様々な分野（消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭り等）において深く結びついている集まり（社会）、地域共同体</p> <p>※2 復興まちづくり計画における各種事業</p> <p>災害公営住宅整備事業、津波復興拠点整備事業、浸水対策事業、津波避難路等整備事業</p> <p>（施策の方向）</p> <p>○中心市街地において、被災した公益的施設及び災害時等に必要な役割を担う施設を一体的に整備することにより、宮古駅周辺を中心とした一帯の拠点性、機能性、利便性を高めます。</p> <p>○復興まちづくり計画における各種事業の実施による影響や変化を検証しながら、引き続き市街地の環境整備を行います。</p> <p>【基本事業1】中心市街地の環境整備</p> <p>○JR及び三陸鉄道宮古駅南側に、防災拠点となる施設、被災した公益的施設、地域活力を創出するための施設を一体的に整備することで、市民に親しまれ、地域の主体性が発揮される中心市街地の拠点を整備します。</p> <p>（関連計画）</p> <p>①宮古市都市計画マスタープラン</p> <p>②宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画</p> <p>③宮古市公共交通ビジョン（H26-31）</p>

<p>宮古市新市建設計画 (変更案) 【平成16年11月策定】 【平成27年3月変更 予定】</p>	<p>第1章 序論 1 新市建設計画策定の方針 (3) 計画の期間 この計画における基本施策及び主要施策、公共施設の適正配置と整備及び財政計画は、合併後、おおむね15年間（平成17年度から平成31年度）を計画期間とします。 第4章 新市の施策（分野別施策） (1) 三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成 〔重点的な施策の体系〕市街地の整備 〔主要な事業〕事業名 中心市街地拠点施設整備事業 (8) 新しいまちにふさわしい行財政運営の推進 〔重点的な施策の体系〕行財政運営の効率化 〔主要な事業〕事業名 庁舎建設基金積立 (合併リーディング・プロジェクト、一体化先導プロジェクト)</p>
<p>宮古市都市計画マスタープラン 【平成15年3月策定】</p>	<p>(平成26年2月20日宮古市議会建設常任委員会説明資料から抜粋) 「宮古市都市計画マスタープラン」の見直しについて 1. 見直しの趣旨 都市計画マスタープランは、長期的な視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けての大きな道筋を市民に明らかにするものであり、宮古市では、平成15年3月に「宮古市都市計画マスタープラン」を策定し、「海の幸 歴史と港で 夢あふれる わがみやこ」の実現に向けて、まちづくりを推進してきたところです。 しかし、策定から10年以上が経過し、二度の市町村合併や東日本大震災からの復興、防災意識の高まりを背景に、都市づくりの目指すべき方向性として大きな分岐点を迎えています。 特に復興事業においては、市庁舎移転を伴う「一団地の津波防災拠点市街地形成施設」をはじめ、田老地区、鉾ヶ崎・光岸地地区の土地区画整理事業など、都市計画を必要とする事業が進んでいるにも関わらず、都市計画マスタープランにはその記載がないままとなっています。 このことから、これらの事業の進捗とともに、復興計画で位置付けられる『発展期』を迎え、都市の将来像を明瞭に謳い、スムーズなまちづくりを行うためにも都市計画マスタープランの見直しを始める必要があると考えます。 2. 計画の期間 計画の期間は、一般的な都市計画マスタープランの計画期間である20年間として、概ね10年後に見直しを行います。 3. 計画の基本的な考え方 宮古市都市計画マスタープランは、市の全域におけるまちづくりの方向性を検討した後、都市計画区域内における施策を示す内容とします。 また、上位計画である『宮古市総合計画』、『宮古市都市計画区域マスタープラン（岩手県決定）』及び復興に関する計画である『宮古市東日本大震災復興計画』と整合を図ることを基本とします。 4. 策定スケジュール（省略）</p>

(宮古市企画課まとめ)

資料2 拠点施設を中心とした中心市街地の活性化のイメージ図



資料3 市民が主体の「健康まちづくり」の取り組みイメージ

1 健康まちづくりの目的

交流や保健、福祉などの機能が、公共交通体系の中心となる宮古駅の南側に集約され、人が集い、賑わいを創出する場として新たな拠点が整備されます。

本市においても更に高齢化が進みますが、多くの市民が自立的に、また必要に応じて地域の支援を得て、より活動的に暮らせるまちづくりが求められ、拠点施設の整備を機に「健康まちづくり」の取り組みがこれまで以上に活発に展開されることが期待されます。

まち全体を「健康づくりの場」として一体的に活用し、市民が健康づくりに積極的に取り組むことは、「健康寿命の延伸」や「生きがい対策」だけでなく、高齢者を中心とした多世代がコミュニティ活動に参加するなど「地域活力の創出」にもつながります。

2 具体的な取り組み例

(1) 運動プログラムの実施

各種団体（関係団体やNPOなど）や地域総合型スポーツクラブ、自治会・町内会、市民グループなどが主体的にあるいは連携し、住民の健康意識を高め、運動習慣を身につけるための各種プログラムを提供します。また、運動だけでなく、健康に関する「知識」を提供する場を設け、年齢や体調に合わせたプログラムが可能となります。

ー高齢者向けプログラム例：貯筋運動教室（ロコモ¹対策）



ー中年向けプログラム例1：スマートダイエット教室（メタボ対策）



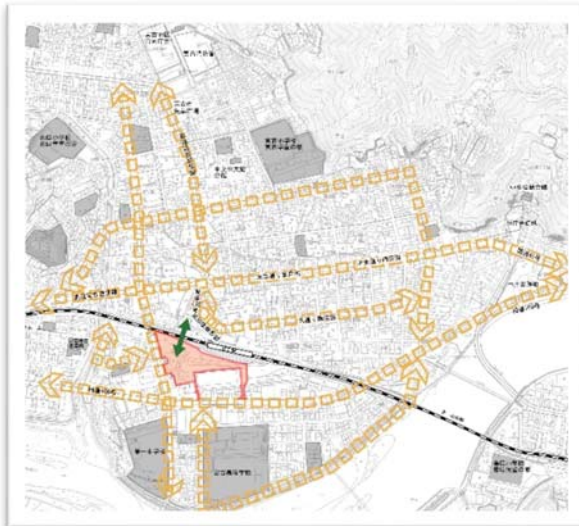
ー中高年向けプログラム例2：（ノルディック）ウォーキング、ヨガ、太極拳教室等



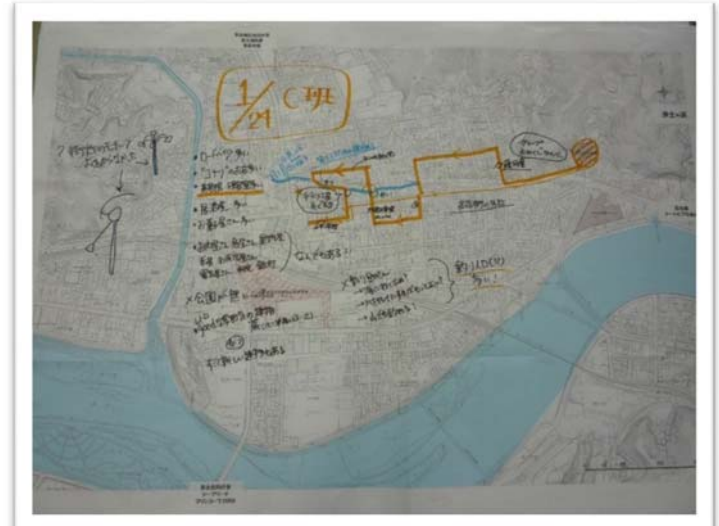
¹ ロコモ：運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ、和名：運動器症候群）」といいます。進行すると介護が必要になるリスクが高くなります。ロコモは筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、もしくは複数の障害が起き、歩行や日常生活に何らかの障害をきたしている状態です。

(2)「まち歩き」の推進

健康レベルに合わせて難易度が選択できる「まちなか散策ルート」を提供します。また、歩行を促す仕組みづくりとして、森・川・海の景色を楽しむコース、魚菜市場や商店街、図書館などの施設や「まちなか」の様々な魅力に触れ合う散策コースなど、「みやこ」の魅力を再発見するルートを設定します。



中心市街地のまちなか散策ルートの例



みやこの魅力に触れ合う散策ルートの例
(市民ワークショップ「まち歩き」の成果)

3 取り組みの波及効果

・まちなか散策や各種運動プログラムを日常生活に取り入れることは、住民の健康づくりにつながるため、医療費抑制という点からも有効です。

【取組効果の事例】

年間の医療費抑制効果 = 歩行数の増加した住民数 × 1日当たりの歩行増加量
× 0.061円/歩 × 365日

(出典：筑波大学久野研究室)

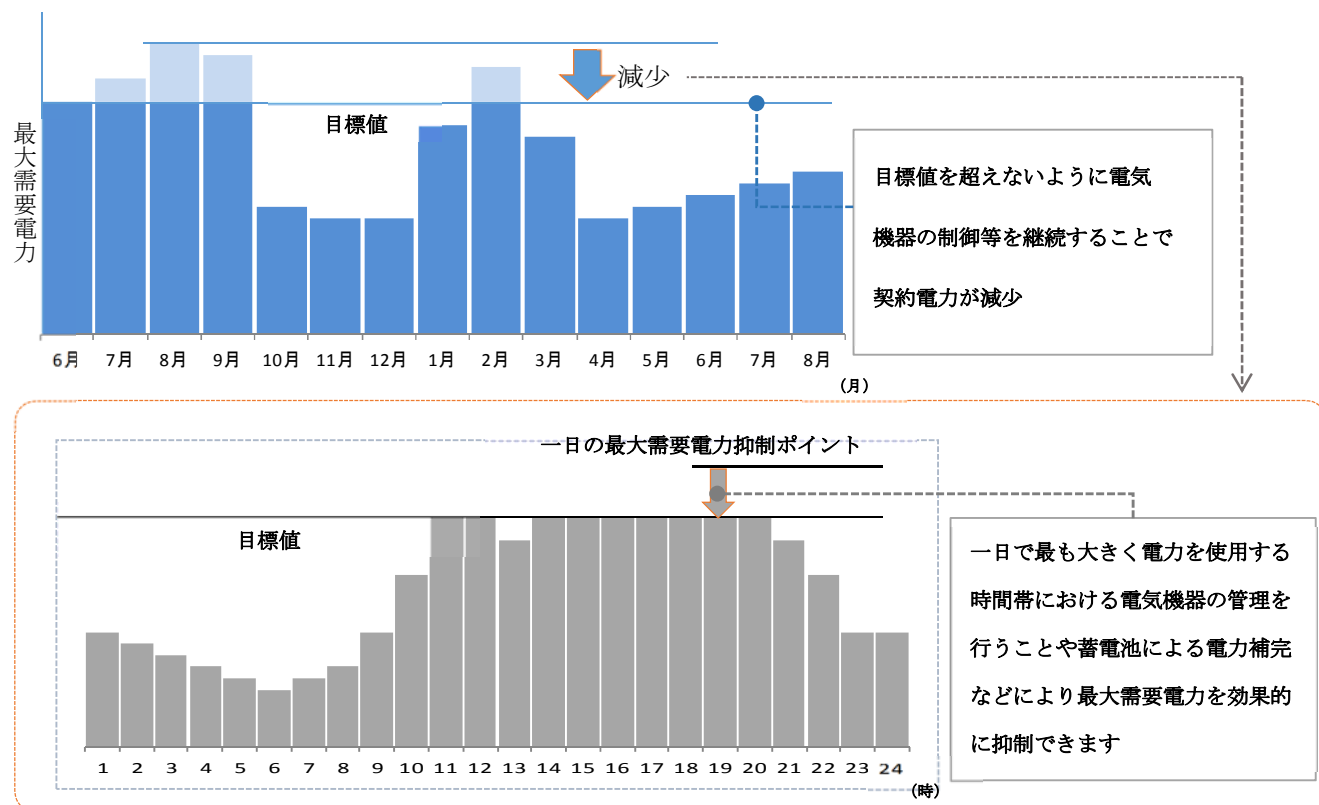
・主に運動愛好者を活動の中心としている地域総合型スポーツクラブに、「健康づくり」という視点から「運動の機会がない人」「運動嫌いの人」にプログラム提供を行ってもらうことで、クラブ運営にも貢献し、クラブが自走できるように育てることができます。クラブが蓄積した人材、ノウハウは地域の財産となります。

・参加者を組織化することで、運動だけでなく、お祭りや地域の行事にも参加の機会を設け、コミュニティの核として育てることも考えられます。

資料4 省エネルギーの取り組み例

1 電力のピークコントロール

電力目標値を超えないようにデマンド（最大需要電力）監視し、照明や空調などの自動制御を行い、節電します。



※電力のピークコントロールや「見える化」による電力料金削減のイメージ

2 エネルギーの見える化

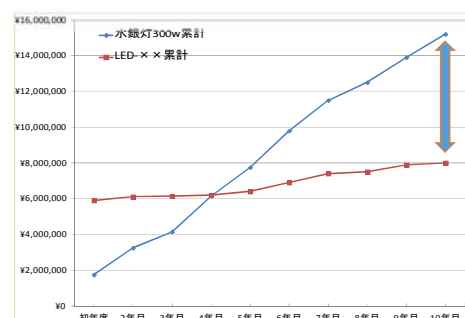
使用している電力をリアルタイムに見せることで、電力利用の意識向上を図り、省エネ効果を引き出します。



3 照明のLED化

照度、耐久性、メンテナンス性、トータルコストに優れたLED照明を使用することで、節電を行います。

器具50個、1日12時間365日、10年間利用の場合



資料5 一時避難者数の推計

1. 地域防災拠点施設の位置づけ

「避難場所」とは、津波、洪水、がけ崩れなどの危険から身を守るため、真っ先に避難する場所（高台など）です。これに対し「避難所」とは、避難生活がある程度長引くと考えられる場合に、自宅の損壊などにより、自宅での生活が困難な避難者が生活するための施設（学校の体育館など）です。

地域防災拠点施設（以下、「拠点施設」という）は、「高台」と同じ役割を想定し、整備後には宮古市地域防災計画に基づく「避難場所」に指定することを検討しています。

2. 拠点施設への避難エリアの検討

拠点施設を避難場所として想定するエリア（以下、「避難エリア」という）を、図1のとおりに検討しています。

このうち、宮古駅北側と連絡する避難通路を使用して避難するエリアを、栄町の一部、大通三丁目、大通四丁目とし、宮古駅南側の避難エリアを、宮町一丁目の一部、南町の一部（国道106号線の北側）と想定します。

なお、避難エリアは、津波の想定到達時間と避難場所までの移動に要する時間距離等を勘案し、避難エリアの指定について、地域住民の意向を踏まえ、今後、精査していきます。

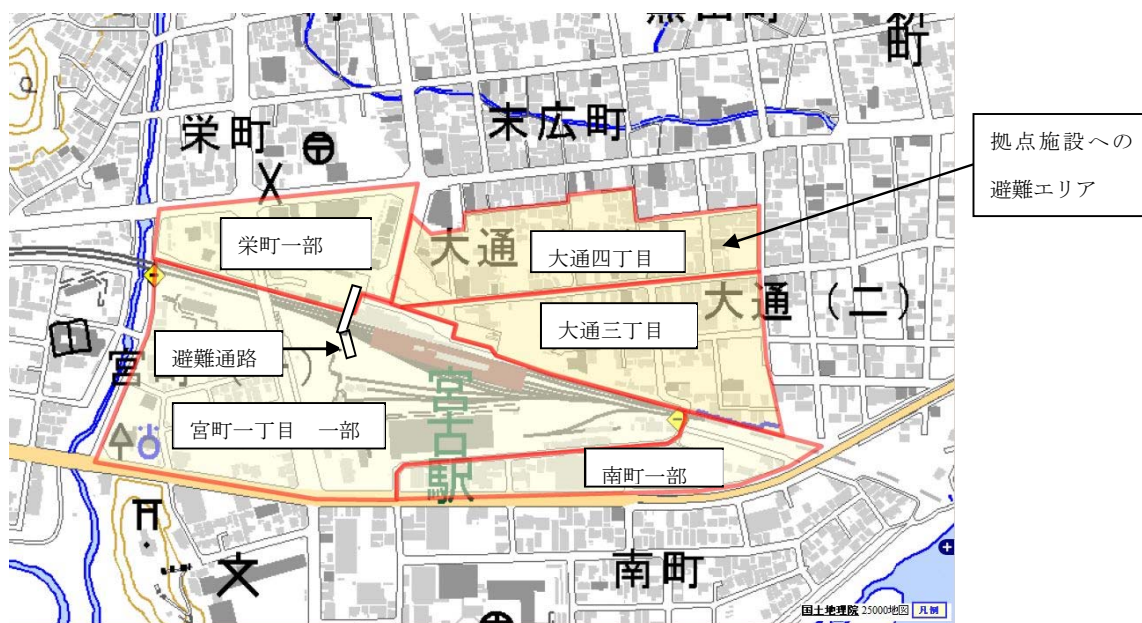


図1 「拠点施設への避難エリア」

３．一時避難者の想定人数

（１）避難エリアからの避難者数の想定

拠点施設への避難者数は、平日と休日それぞれの昼間人口と夜間人口を、表１のとおり想定しました。なお、昼間人口は、非労働力人口、未就学者数、在園児数、事業所の従業員数の合計数です。

表１ 避難エリアからの避難者数の想定

	平 日	休 日
昼間避難者数	1, 5 5 7人	6 3 3人
夜間避難者数	6 3 3人	6 3 3人

(平成２２年国勢調査ほか)

（２）避難エリアからの避難者数のうちの要支援者数

避難エリアの要支援者数を「災害時要支援者名簿」等から抽出し、表２のとおり算定しました。

表２ 避難エリアの要支援者数

要支援者の種別	人数（人）
①高齢者 要介護者	1 3
②障害者 身体、知的、精神	8
③乳幼児・妊産婦	3 6
合計	5 7

①～② 平成２６年２月末現在

③ 平成２６年１２月２５日現在

（３）拠点施設からの避難者数

災害発生時に拠点施設を利用している来訪者について、現在の本庁舎への来庁者数や新施設の入込予想から、表３のとおり算定しました。

表３ 拠点施設の利用者想定数

	平 日	休 日
防災・地域活力創出拠点施設	9 8人	1 4 7人
本庁舎	2 0 0人	-
保健センター	8 0人	-
合 計	3 7 8人	1 4 7人

(4) 一時避難者の合計数

(1)～(3)の結果から、合計数は最大1, 935人と想定します。施設の必要面積(受入れ対応分)については、通常の入入れスペースを1㎡/人、要支援者の入入れスペースを3.3㎡/人で算定した結果、最大で2, 066㎡と算定されます。

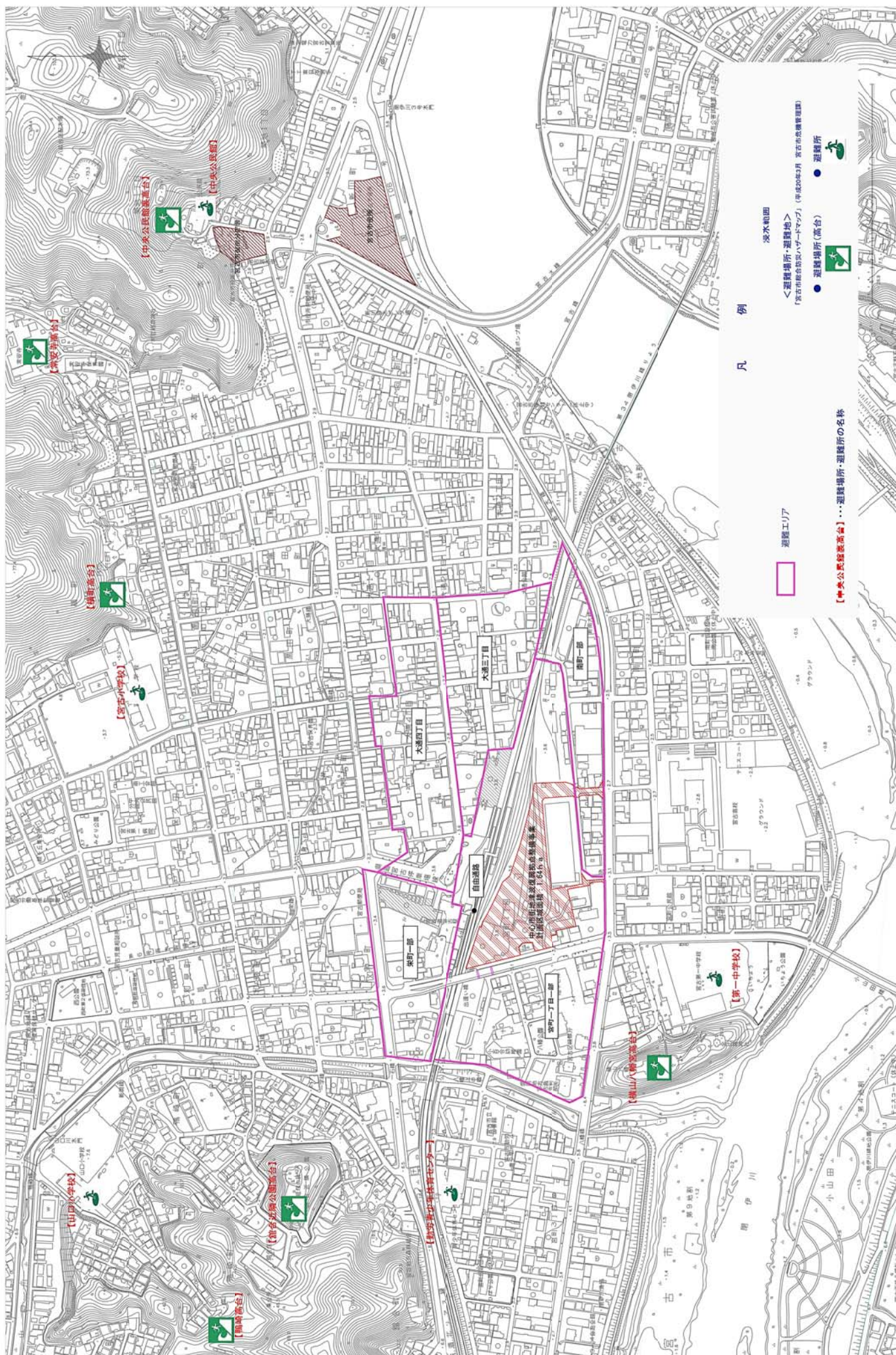
ただし、商業施設の買い物客数、通行人、駅での公共交通機関乗降数、娯楽施設の客数や駅前などで開催するイベント参加者が拠点施設に避難するとした場合の入入れ対応(本庁舎の会議室等)もあわせて、検討していきます。

表4 拠点施設の一時的避難者数の合計と必要面積

	平 日		休 日	
	避難者数	面積	避難者数	面積
周辺エリアからの避難者数	1, 557人		633人	
うち、一般避難者	1, 500人	1, 500㎡	576人	576㎡
うち、要支援者	57人	188㎡	57人	188㎡
施設利用者	378人	378㎡	147人	147㎡
合 計	1, 935人	2, 066㎡	780人	911㎡

※平日は昼間、休日は夜間の避難者が最大と想定されます。

中心市街地の指定避難場所（高台）と避難所



資料6 施設利用需要調査報告書（防災・地域活力創出拠点施設）

調査の概要及び結果

1 公民館利用者アンケート調査

実施期間	平成 26 年 9 月 19 日～平成 26 年 10 月 3 日		
調査対象	中央公民館、中央公民館分館、千徳公民館、山口公民館、青少年ホーム を利用している団体・サークル 計 151 団体（延べ数：1 団体で複数施設の利用あり）		
回答数	129 団体（回答率：85.4%）		
調査内容と 主な結果	①利用室の広さの希望		
	1. 現在の部屋より広い方がよい	16.3%	
	2. 現在の部屋の広さがよい	76.0%	
	3. 狭くてもよい	6.2%	
	4. 無回答・その他	1.5%	
	②利用室の床の希望		
		文化的活動	運動的活動
	1. 素足等で利用できるフロア	37.5%	60.5%
	2. 土足利用できるフロア	18.8%	0.0%
	3. 和室	6.3%	7.9%
	4. こだわらない	31.3%	26.3%
	5. 無回答・その他	6.1%	5.3%
	③中心市街地に同様の施設ができた場合の利用見込みについて		
	1. 利用してみたい	74.4%	
	2. 利用しないと思う	7.8%	
3. どちらともいえない・わからない	17.1%		
4. 無回答・その他	0.7%		
④子ども一時預かりができた場合の活動中の利用見込みについて			
1. 利用してみたい	27.9%		
2. 利用しないと思う	24.8%		
3. どちらともいえない・わからない	34.9%		
4. 無回答・その他	12.4%		
⑤活動するうえでの希望・要望（多い順に掲載）			
・鏡面の設置/冷暖房の完備/グランドピアノの設置/コピー機の設置/黒板かホワイトボードの設置			

2 音楽スタジオに関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 10 月 8 日～平成 26 年 11 月 5 日			
調査対象	・ 市内の音楽スタジオ 3 店舗 ・ 音楽関係者（バンド活動・吹奏楽） 10 代～40 代・ 8 名			
調査内容と 主な結果	1．施設（市内店舗）			
		A 店	B 店	C 店
	①開館時間	12 時～24 時	14 時～24 時	～22 時
	②料金体制	1500 円/時間/1 室	800 円/2 時間/1 人	ライブ 2,500～ 3,000 円
	③面積	40 m ²	66 m ²	50 m ²
	2．個人（新施設）			
	①利用希望			
	1．利用してみたい		6 人/8 人	
	2．どちらともいえない		1 人/8 人	
	3．利用しないと思う		1 人/8 人	
（理由）				
1 の場合：イベント前などに予約が取れない/学生は公共施設の方が入りやすい/駐車場が整備され、機材の運搬が楽/駅に近く便利				
2 の場合：ピアノを担当しているので、機材がないと利用しない				
3 の場合：学校内の練習場所で満足している。				
②希望する備品（音楽機材）				
スピーカー、アンプ、マイク、マイクスタンド、ドラムなど				
③希望するレイアウト				
北上市さくらホールのルーム 1（58 m ² ）、ルーム 2（38 m ² ）				
レッドホット盛岡（20～30 m ² ）				

3 調理スタジオに関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 10 月 22 日、11 月 11 日
調査対象	市内公民館等の調理スタジオを利用しているサークルの代表者 2 団体
調査内容と 主な結果	<p>①活動実態</p> <p>5 人～35 人、月 1 回程度</p> <p>②交流施設の利用希望</p> <p>どちらともいえない 2 団体／2 団体</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動頻度を増やす計画もなく、既存施設で不便が無い。 ・施設利用料が発生すると、参加者の負担となる。

	<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手芸や生け花教室でも調理室を利用できる。 ・子どもを預けられる施設があれば、参加者の幅が広がる。
--	--

4 子育て支援機能に関する聞き取り調査

実施期間	平成 26 年 11 月 27 日、11 月 28 日
調査対象	市職員男女（子育て中の者） 11 名
調査内容と 主な結果	<p>（内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援機能（諸室）の必要性について ・現在の子育て環境（市内外の施設や公園など）について <p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺に子育て支援機能があることは、便利である。 ・必要不可欠ではないが、あれば非常に助かる。施設全体の賑わいを生むことが期待できるのではないかな。 ・利用するとしたら、ある程度の広さや機能が欲しい。また、屋外にも広場などもあれば楽しい ・諸室を設けた場合、すくすくランド等の利用者の取り合いが少なからず発生するが、相談機能などは、キャトル内に残すべきであり、一定の利用者は、すくすくランドのような環境を好む可能性もある。 ・その他、部屋の広さや形態（オープンスペースか個室か）、設備（トイレ、授乳室など）、利用のルールなどについて意見あり。

資料7 市庁舎及び行政組織の配置

■現在の配置状況

	建 築 年 度	延床面積 (㎡)	配 置 部 署
本 館 (本庁舎)	S47	5,705.30	総務企画部（総務課、企画課、復興推進課、財政課、 契約検査課、税務課） 市民生活部（総合窓口課、環境課、生活課） 保健福祉部（福祉課、介護保険課） 産業振興部（水産課） 都市整備部（建設課、建築住宅課） 危機管理監（危機管理課）※消防対策課は宮古消防署内 会計管理者（会計課） 議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局
別館(本庁舎)	S47	659.68	1階：車庫、2階：財政課運転技士詰所、職員休憩室等
都市整備部 第二事務所	H25	398.47	都市整備部（都市計画課）
分庁舎	S37	1,667.55	産業振興部（産業支援センター、商業観光課） 教育委員会事務局（教育研究所ほか）
田老庁舎	S46	2,451.00	田老総合事務所（地域振興課、住民生活課）
新里庁舎	S55	2,243.00	産業振興部（農林課） 新里総合事務所（地域振興課、住民生活課） 教育委員会事務局 （総務課、学校教育課、生涯学習課、文化課） 農業委員会事務局
川井庁舎	S48	1,415.90	川井総合事務所（地域振興課、住民生活課）
宮古保健センタ ー仮設庁舎	H25	583.20	保健福祉部（健康課）
上下水道部庁舎 水道庁舎 管理本館 水質検査 センター	S63 S57 H6	709.00 934.57 504.60	上下水道部（生活排水課） 上下水道部（公営企業）（経営課、施設課）

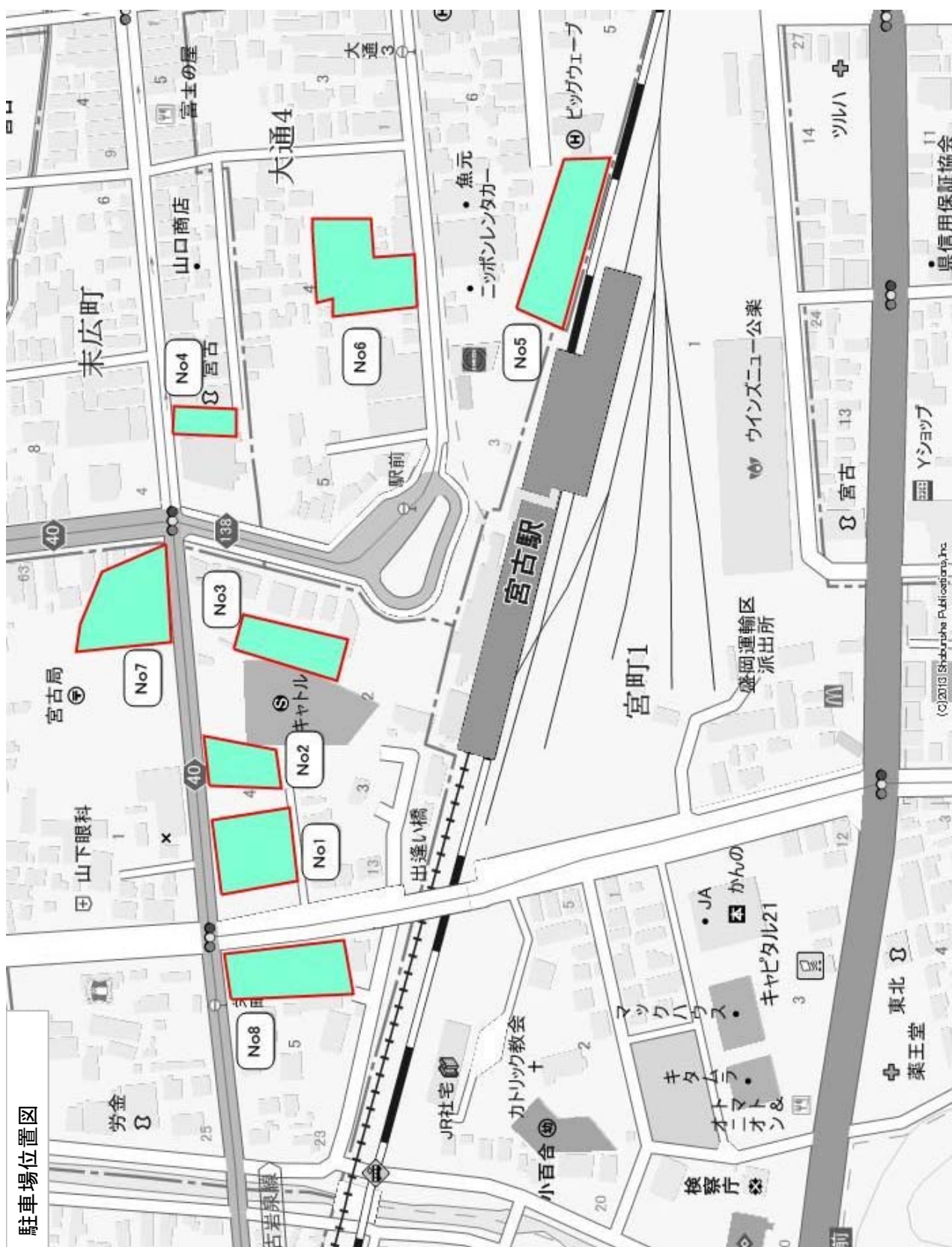
■供用開始時の配置見込み（本庁舎）

本庁舎	総務企画部（総務課、企画課、復興推進課、財政課、契約検査課、税務課） 市民生活部（総合窓口課、環境課、生活課） 保健福祉部（福祉課、介護保険課、 健康課 ） 産業振興部（ 産業支援センター、商業観光課、農林課 、水産課） 都市整備部（建設課、 都市計画課 、建築住宅課） 危機管理監（危機管理課）※消防対策課は宮古消防署内 会計管理者（会計課） 教育委員会事務局（総務課、学校教育課、生涯学習課、文化課） 議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局、 農業委員会事務局
-----	--

※太字は、建設時に集約を想定する部署です。

資料 8 駐車場整備に関する対応例

対応策	メリット	デメリット
①公共交通機関の利用促進と、周辺駐車場の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費を抑えられる。 ・公共交通機関の利用促進につながる。 ・敷地に余裕があれば、立体駐車場を後から整備するなどの2次的な対策が可能。 ・施設の低層化が可能。(圧迫感が抑えられ、建設費も安価。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用者が多い日(行事や税申告等が重なった場合など)に駐車区画が不足する。 ・周辺の民間施設などに無断駐車することが予測される。
②立体駐車場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ピロティ構造に比べて安価に対応が可能。 ・施設の低層化が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物が増えるため、立体駐車場自体の維持管理が必要。 ・立体駐車場の建設費がかかる。 例:60台収容の駐車場を確保するため、1層2段の立体駐車場を整備した場合の建設費 概算 1.65億円増額
③施設の高層化	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い敷地を有効に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の低下 ・施設の建設費が上がる。 ・低層の建物に比べて、ランドマーク性を演出できるが、圧迫感がやや大きい。
④ピロティ構造の採用	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水対策につながる ・災害時に、物資集配・配送場所として運用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピロティ構造にした棟が1層分、高層となり、庁舎の窓口部門もしくは交流棟のエントランス等を1階に配置できない。 ・建設費が増える。(1㎡あたり、25万円/㎡程度と試算、建築面積を2,000㎡とすると、概算で5億円増額)



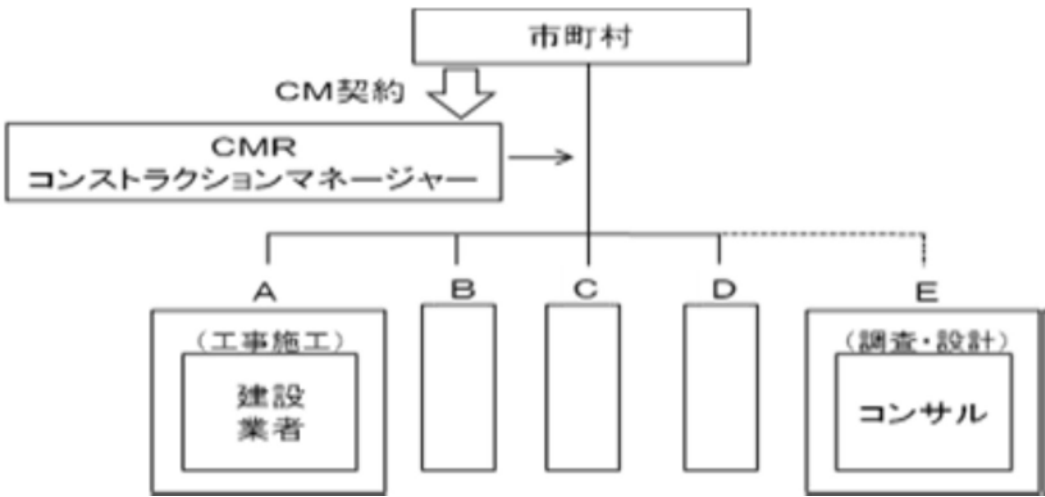
資料10 CM（コンストラクション・マネジメント）業務について

建設生産・管理システムの一つであり、コンストラクションマネージャー（CMR）が、技術的な中立性を保ちつつ発注者の側に立って、設計・発注・施工の各段階において、設計の検討や工事発注方式の検討、工程管理、品質管理、コスト管理などの各種のマネジメント業務の全部または一部を行うもの

（1）ピュア型（発注者支援型）

計画、設計、調達、施工管理など主として発注者が行うマネジメント業務をサポート

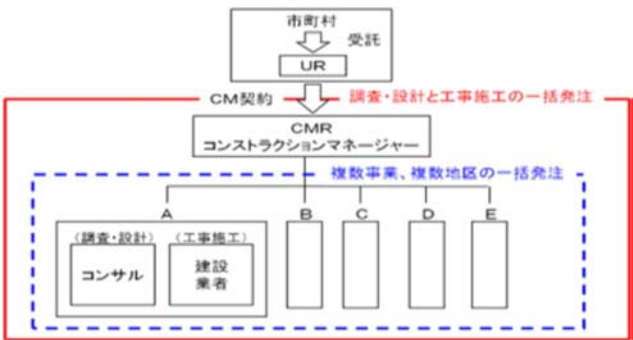
例：東京都町田市庁舎



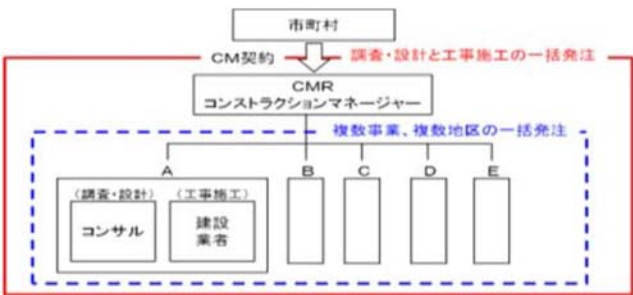
（2）アットリスク型（発注者代行型）

発注者の了承を得ながら、計画、設計、調整、施工管理など発注者業務を代行して実施

①URが市町村業務を受託するケース
(田老地区震災復興事業)



②URを介さないケース
(石巻市水産物地方卸売市場石巻売場
建設事業)



資料11 まちづくり市民会議の経過

- 1 名称 宮古市中心市街地拠点施設整備事業に関する「まちづくり市民会議」
- 2 内容
 - (1) 課題 現在の市庁舎と宮古駅南側に整備予定の拠点施設を核とした中心市街地地区（エリア）に、結びつきやつながりを築き活性化を生み出す方策について、アイデアを出し合う
 - (2) 対象 市内在住の概ね高校生から40歳未満で、まちづくり団体及びグループなどの構成員ほか
 - (3) 時期 平成26年11月～27年9月
 - (4) 方法 課題について共同作業で議論することにより、案を作り上げる「ワーク・ショップ方式」
 - (5) 反映 住民意向として、宮古市あるいは市民検討委員会などへ提出し、「基本計画」等の中で反映、検討
 - (6) 体制 岩手県立大学との地域協働研究（平成26年10月22日採択）
弘前大学教育学部住居学研究室と連携（平成26年10月23日協議）

3. 開催の経過

平成26年度は、次表のとおり開催しました。平成27年度も引き続き開催します。

回	日時	会場	内容・テーマ
1	11/29(土) 14:00 ～ 17:00	市役所6階 大ホール	講演「まち育てのススメ」弘前大学北原教授 ワークショップ「中心市街地地区の活性化のアイデア」
2	12/20(土) 13:00 ～ 16:00	市役所6階 大ホール	ワークショップ「中心市街地地区の活性化（まち育て）のアイデア」
3	1/24(土) 13:00 ～ 16:00	市役所分庁舎 中心市街地	ワークショップ「中心市街地地区の活性化 ～冬のみやこ、まち歩きワークショップ」
4	2/21(土) 13:30 ～ 16:30	市役所分庁舎 3階大会議室	ワークショップ「中心市街地地区の活性化 ～まち歩きマップづくりワークショップ」

※ 詳細は、別添「かわら版」を参照

4. 参加登録者（平成27年2月末現在、名簿は省略）

- ・一般公募 5名
 - ・学生・生徒（短大、高校） 30名
 - ・NPO等まちづくり団体 9名
 - ・関係機関、団体ほか 16名
 - ・市職員 7名
- 合計 67名（男 44名、女 23名）

みんなで“まちを育てる”フォーラム 市民ワークショップ

かわら版

第1号



平成26年12月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

宮古市では、現在、宮古駅南側に、防災・地域活力創出施設、市役所庁舎、保健センターの3つの機能を集約した拠点施設の整備を検討しています。

新たな拠点施設のあり方や、現在の市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイデアについて、特に若い世代の市民の皆さんの声を活かしながら進めたいと考えています。

そこで「みんなで“まちを育てる”フォーラム」という場を用意しました。この場で、これからの宮古のまちについて、ワークショップ形式で話し合っていきたいと思います。来年夏までの間に5回程度のワークショップを予定しています。皆さんの意見を、これからの宮古市中心市街地のまちづくりにぜひ活かしていきましょう！

11月29日 第1回市民ワークショップが開催されました

平成26年11月29日（土）14時より、市役所6階の大ホールで第1回目の市民ワークショップが開催されました。ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の49名の皆さんに参加していただきました。講演のみを聴いた方や見学者を含めると、70名近い皆さんに参加いただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。

<https://www.facebook.com/city.miyako>

弘前大学 北原啓司先生のお話 「“まち育て”のススメ」

ワークショップに先立ち、弘前大学の北原啓司先生による基調講演が行われました。タイトルは「“まち育て”のススメ」です。

これまでの「まちづくり」は、「つくる人」…つまり役所が主体で、市民は与えられたものをほめたり文句を言うだけの、形だけの参加でした。

でも、そのまちに暮らす市民の皆さんは、「つくる」プロではないですが、「たべる」側のプロです。「つくる」人と「たべる」人とが、お互いの役割を尊重しながら、新しい関係をつくっていくことが大事になります。

これからの高齢化の進む社会は、今ある資源を活用する時代です。そこで、自分たちのまちを「育てていく」という発想が大切になります。



復興のまちづくりに本当に必要な視点は、まちを「たべる人」の視点です。

まちを「たべる人」の武器がワークショップ。足を使い、目と耳を使って課題を見つけだし、自分たちの言葉で考え、創造する…そのための道具がワークショップなのです。

市民ワークショップ 各班での話し合いの様子



ワークショップの前半は、7つの班に分かれて各班ごとに話し合いを行いました。

今回のワークショップでは、活性化しているまち、賑わっているまちの様子をイメージするために、以下の3つの切り口で意見を出すことにしました。

- ①そのまちで自分がしてみたいこと
- ②そのまちで他の人がやっていること
- ③こんなまちはいやだ！

…これらについて、それぞれ色分けして、付箋紙に書き込み、模造紙に張り出しながら意見を発表していきました。

各班からの発表、北原先生のまとめ



その一方で、「こんなまちはいやだ！」という切り口では、バスや電車のアクセスの悪さ、歩道が整備されていない状況、案内サインの不備、街灯の不備、四年制大学がないなどの点が挙げられました。

最後に、北原先生に、たくさん出た意見をまとめてもらい、第1回ワークショップは終了しました。

次回の第2回ワークショップでは、今回のワークショップで示された「賑わっている街、活気がある街のイメージ」を実現するためのアイデアを出すことを目的として実施する予定です。

各班での話し合いの後、班ごとに意見内容を発表し、参加者で意見の共有をしました。

賑わっている街、活気がある街のイメージとして、若者が活躍できる街、子どもの声が聞こえる街、仮設に閉じこりがちの人が出て来なくなる街、つどえる場所、みんなで楽しめるイベント…といったイメージが示されました。

また、「いろいろないいもの、面白いものがあるのもっと使えばいいのに…」ということで、鮭、面白い人、国立公園、レンタル自転車といったキーワードが出てきました。

第2回ワークショップのお知らせ

日時: 12月20日(土) 13~16時
場所: 市役所6階大ホール

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる” フォーラム 市民ワークショップ

かわら版

第2号



平成27年1月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みよこちゃん

新年あけましておめでとうございます。

宮古駅南側に計画されている新たな拠点施設のあり方や、現在の市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイデアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」の第2回ワークショップが、昨年12月に開催されました。この「かわら版」第2号では、その時のワークショップの様子を紹介します。

今年夏までの間に、ワークショップを5～6回程度開催する予定です。皆さんの意見を、これからの宮古市中心市街地のまちづくりにぜひ活かしていきましょう！

12月20日 第2回市民ワークショップが開催されました

平成26年12月20日（土）13時より、市役所6階の大ホールで第2回目の市民ワークショップが開催されました。ワークショップには、高校生、短大生から40歳までの年代の52名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。

<https://www.facebook.com/city.miyako>

市民ワークショップ 各班での話し合いの様子



E班の話し合いの様子



B班の話し合いの様子



F班の話し合いの様子
後ろからのぞいている人は誰でしょう？

ワークショップに先立ち、宮古市役所の竹田さんより、新しい施設の計画の概要と、現市庁舎の跡地に関する市民アンケートの結果についての説明がありました。

その後、7つの班に分かれて、班ごとにワークショップ形式での話し合いが行われました。今回のテーマは、「前回のワークショップで示された「まちに活気がある」「にぎわっている」というイメージを実現するためのアイデアを出してみよう！」とい

うものです。

それぞれの参加者が、自分の考えたアイデアを「駅南側の新しい施設」「現市庁舎の跡地」「まちなか（中心街）」「その他」という区分けでポストイットに書き出して、班のなかで発表しました。

それから、これらの意見を、大きな地図や模造紙に張りながら、班のメンバーどうして話し合い、まとめていきました。

どんなアイデアが出てきたでしょうか…

各班からの発表

各班での話し合いの後、班ごとに意見内容を発表し、参加者で意見の共有をしました。

それぞれの班から発表された意見の一部を、以下に紹介します。

A班

- ・末広町アーケード化計画
- ・市庁舎跡地…コンサートステージ
イベントスペース、展望台
- ・宮古は広い。昼休みを2時間に！

B班…住むなら宮古・行くなら宮古

- ・観光インフォメーション…観光案内
グルメのフリーペーパー
- ・NPOなどが活動できるスペース
- ・星がきれい…夜の観光

C班

- ・既存のものをアピールしよう！
- ・なあどの有効活用を
- ・新施設…専門知識を持つ人材を

D班…あいのまま宮古II

- ・歴史…震災を若い世代に伝える
- ・市内循環バスを！
- ・学生が集まれるスペースがほしい



E班 …世代ごとを充実させて 広い世代とつなげたい

- ・末広町→「巣鴨」、宮町→「渋谷」
新施設は「新宿」？
- ・汽車が見える図書館併用のカフェ
- ・スポーツ施設（フットサルなど）

F班…人と心がつながる街づくり

- ・目で見て楽しめる商店街
- ・ボランティア活動センター
- ・宮古タワー…宮古の象徴として

G班…「珍百景の街」みやこ

- ・商店街に「隠れサーモンくん」を！
- ・来訪した有名人の手形を残す
- ・市役所を鮭の形にしては？

まとめ・コメント

最後に、県立大学の内田先生が、各班の意見をまとめて、宮古短大の植田先生からコメントをいただき、第2回ワークショップは終了しました。



次回の第3回ワークショップは、実際にまちを歩いてみます。題して「冬のみやこ、まち歩きワークショップ」。十分に暖かい服装でご参加ください。デジカメまたはスマートフォンをご持参ください。

第3回ワークショップのお知らせ 「冬のみやこ、まち歩きワークショップ」

日時：1月24日(土)13～16時
場所：市役所分庁舎3階大会議室

参加は自由です。興味のある
お知り合いの方がいましたら
ぜひお誘いください！

問合せ先
宮古市役所企画課
電話 68-9089



みやこちゃん

みんなで“まちを育てる”フォーラム
市民ワークショップ

第3号

かわら版



平成27年2月
発行：岩手県立大学
盛岡短期大学部
内田研究室

サケのまち宮古PRキャラクター
サーモンくん&みやこちゃん

1月24日 第3回市民ワークショップが開催されました

宮古駅南側に計画中的新たな拠点施設のあり方や、現市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地地区に賑わいを産み出すためのアイディアについて話し合う「みんなで“まちを育てる”フォーラム」第3回目の市民ワークショップが、1月24日（土）に開催されました。

今回のワークショップは「冬のみやこ、まち歩きワークショップ」と題して、冬の昼下がりのまちを皆で歩いてみました。当日は天気にも恵まれ、高校生、短大生から40歳までの年代の36名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は宮古市公式facebookページにも掲載されています。 <https://www.facebook.com/city.miyako>

さあ、いざ「まち歩き」へ出発！！

今回のテーマは、まちで見たものの中で「今日はどうしてもこれを伝えたい！」と感じた「今日の1枚」の写真を撮ってくることです。

初めに、弘前大学の北原先生から「まち歩きの心得」についてアドバイスがあり、その後、各班ごとに分かれて、まち歩きに出発しました。



皆さんが選んだ「今日の1枚」について発表

その後、参加者の皆さんが選んだ「今日の1枚」を順番にスクリーンに映しながら、一人ずつ自分が選んだ写真を紹介し、思い思いにコメントをしました。

皆さんそれぞれ、様々な切り口で宮古の街のワンシーンを切り取ってくれました。皆さんから発表された「今日の1枚」の一部を、以下に紹介します。



視線の先の稜線



親子仲良く風揚げ



お年寄りの社交場



川岸に力尽きた鮭が



子どもを乗せられる自転車



山口川にカモが来てほしい



いまでしょ!!



バス停のベンチ



若い女子、大コーフン!



「昭和」ストリート



サントス!



「あーら おすばらぐだがねえ」



ガッチャンポン



魚菜市场にはどう行くの?



昼からカラオケ大会



……………かぼちゃ

次回は、撮った写真を使ってマップづくりをします

最後に、弘前大学の北原先生からコメントをいただき、第3回ワークショップは終了しました。

次回の第4回ワークショップは「冬のまち歩きワークショップ～マップづくり」。今回のまち歩きで撮った写真を使って、まちなかのマップをつくる予定です。

第4回ワークショップは、自分の写真がなくても参加できます。第3回を欠席した方で、皆に見てもらいたい写真があるという人は、その写真をデジカメ（スマートフォン）に入れたまま当日持って来てください。

また、今回歩かなかったエリアで、「ここはぜひ見てほしい」というものがある人は、写真を撮って当日持って来てください。

第4回ワークショップのお知らせ

「冬のまち歩きワークショップ～マップづくり」

日時: 2月21日(土) 13:30～16:30

場所: 市役所分庁舎3階大会議室

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたらぜひお誘いください!





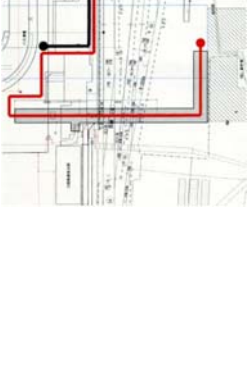
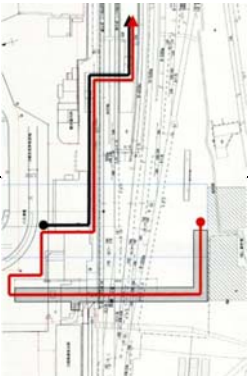

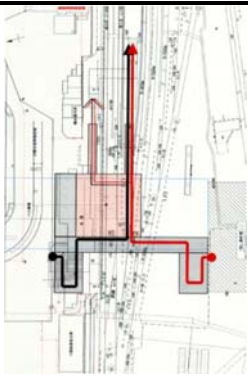
問合せ先
宮古市役所企画課
電話 0193-68-9089



みやこちゃん

自由通路の比較検討表

H25山田線宮古駅周辺整備基本計画調査成果を参考に作成

		単独通路案		橋上駅舎複合案		備考
		屋根なし	屋根あり	一部橋上化	全部橋上化	
全体バース	イメージ					
						
コスト	イニシャル	総工事費(百万円)	680	800	1310	2150
		内 鉄道側施設	190(支障移転、既存駅舎改造)	190(支障移転、既存駅舎改造)	490(仮駅舎、駅舎新設)	1480(仮駅舎、駅舎新設)
		内 都市側施設	400	520	730	600
		内 E(ラッチ付)	90	90	90	90
	ランニング	路面は屋根がないため、降雪時の対応等が必要となる。 照明等の設備が不要なため最も有利である。	○	○	○	○
快適性と利便性	駅のパリアフリー化	雨天時においては快適性に劣る。	△	○	○	○
		現状通り	○	○	○	○
		現状より1番線は良いが、2、3番線は悪い。	○	○	○	○
		一旦北側駅前広場を迂回するため、遠回りになる。	○	○	○	○
	JRとの管理範囲	駅舎と連絡通路が別々となるため、一体的な顔にはならない。	△	△	◎	◎
総合評価(案)		駅とは構造的に分離されるためすべて市管理となる	○	○	△	△
		駅とは構造的に分離されるためすべて市管理となる	○	○	△	△

自由通路整備イメージ



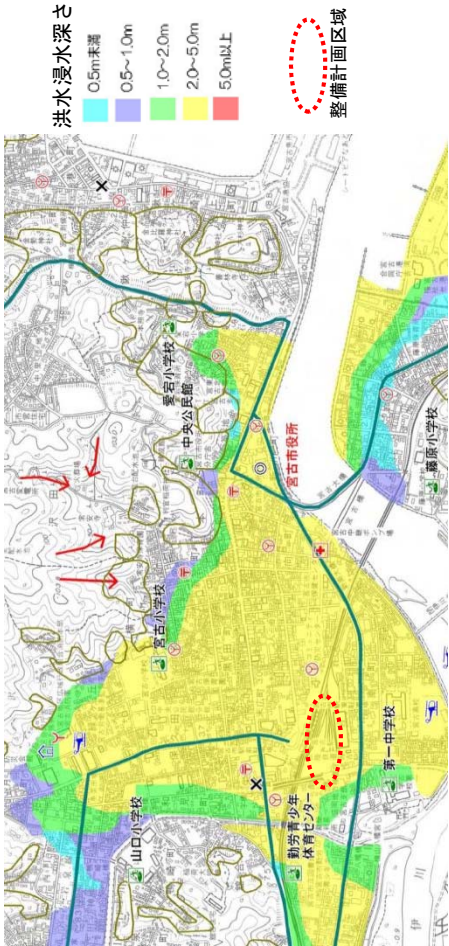
※このパースは、イメージであり、今後設計を行い、整備内容を具体的に検討します。

整備計画区域の浸水深について

1. 浸水深の検証について

中心市街地の多くは 100 年に 1 程度程度の大雨による洪水で『宮古市総合防災ハザードマップ』（平成 20 年 3 月全世帯配布）（以下：ハザードマップ）によると 2m から 5m の浸水が想定されています。整備計画区域において、ハザードマップで想定されている浸水深をより具体的に検証するためハザードマップのほか市内に甚大な被害を与えたアイオン台風（昭和 23 年 9 月）の被害状況をまとめた文献[※]や当時の痕跡を記した市内各所の浸水標識から浸水深を算定しました。

※（駒井雅三 著 伸びゆく宮古ーアイオン台風から（昭和 41 年刊））



【図—1：宮古市総合ハザードマップ（土砂・洪水編）】

2. 検証の方法と手順

① 整備計画区域の浸水深の算定

ハザードマップで示された浸水の深さ 2m から 5m の範囲で最低の標高となる地点を抽出し、その地点が最大の浸水深 5m になると仮定した場合、整備計画区域ではどの程度の浸水深になるのかを算定します。

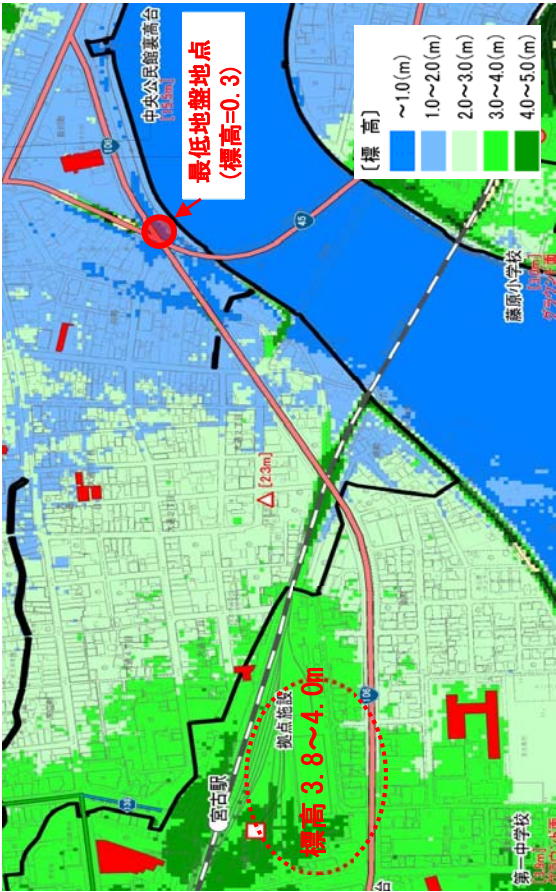
② アイオン台風時の浸水高からみた想定浸水深の妥当性を検証

算定した浸水深について、アイオン台風時の浸水深の痕跡等から妥当性について検証します。

3. 検証結果

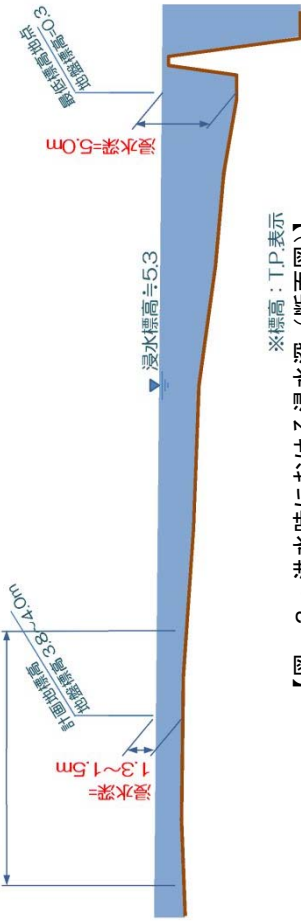
① 整備計画区域の浸水深の算定

- ・洪水時における浸水標高＝最低地盤地点における標高（TP=0.3）＋ハザードマップにおける最大浸水深（5.0m）＝5.3m
- ・浸水標高 5.3m とした場合、整備計画区域の浸水深は 1.3～1.5m となります。



※地形データは、震災復興計画基本図（迅速図）を使用。

【図—2：最低地盤地点の標高】



※標高：T.P.表示

【図—3：洪水時における浸水深（断面図）】

■資料14_水害対策比較検討表

一般に①②③出入口での止水対策、④⑤フロアレベルの嵩上げ、その他ガラス補強での止水対策がある

検討項目	①防水シャッター	②止水板	③防水シート	④地盤の嵩上げ	⑤建物基礎立上げ	⑥1階外壁窓範囲をガラス補強する(FIX強化合せガラス仕様)
主要設置場所	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	出入口(設置対象幅:4.0m) (1棟につき3ヶ所とする)	建築面積範囲	建築面積範囲	外壁窓範囲
概要	 <p>(三和シャッター工業:使用時のイメージ) 防水機能をもつパネル式シャッターでの対策</p>	 <p>(福岡市博多区役所) 支柱にパネルを差込んで簡単に組み立てられる止水板での対策</p>	 <p>(福岡市営地下鉄天神駅) 防水シートを浸水高さまで張着することでの対策</p>	 <p>地盤自体を浸水高さまで嵩上げることでの対策</p>	 <p>基礎躯体を浸水高さまで立上げることでの対策</p>	 <p>外部開口部窓の硝子を浸水高さまで強度検討し厚くすることでの対策(10mm+10mm)等</p>
設置可能範囲	開口寸法 W1.5~5.0m内外	W2.0m(連装可能)	W2.5m	-	-	-
止水高さ	2.0m(水没不可)	0.3~1.5m	1.5m	-	-	1.5m
設置時間の目安	1人で 約2分(電動)	1~2人で 5~10分(手動)	1人で 5~10分(手動)	-	-	-
長所	・浸水高さ2mまで対応可能である ・開閉速度3.1m/分と電動なので設置の手間が要らない	・首都圏地下鉄上屋出入口の設置等、事例が多く、伝統的な対策である。	・操作性が良い ・イニシャルコストが相対的に安い	・設置手間が要らない ・イニシャルコストが最も安い	・設置手間が要らない	・設置手間が要らない
短所	・イニシャルコストは最も高い	・設置に人数が必要である ・収納スペースが必要である ・イニシャルコストは高い	・浸水深1.5mを超える高さには対応できない	・隣接する鉄道との協議や技術的制約条件との整合が必要になる	・イニシャルコストは高い ・出入口に段差ができ、約30mのスロープが必要になる	・イニシャルコストは高い
単価/部材寸法	1出入口当り1600万円 W2.0×H2.5(2枚分)	1出入口当り250万円 W0.4×H1.6(10枚分)	1出入口当り720万円 W2.5×H1.5(2枚分)	建築面積1m3当り0.5万円 地盤嵩上げ1.5m	基礎体積1m3当り4.0万円 基礎立上げGL+1.5m(梁成2.5m)	1枚当り90万円 W2.0×H1.5(1枚分)
対策費(浸水深:1.5m)	約9600万円	約7500万円	約4300万円	約2300万円	約6600万円	約7200万円

※対策費は(概算)は、次の設定を目安に算出する。①建築面積は 約3,000㎡ ②出入口 6ヶ所×4.0m ③建物周長 約320m(周長の1/2を窓範囲:fix窓80枚分) ④基礎立上げ躯体数量 約1650m3

1. 交通処理調査の目的

新施設予定地への交通処理は、主に国道106号からとなりますが、国道106号の現状をみると、朝夕に一時的な渋滞がみられます。



■ 国道 106 号マクドナルド前



■ 国道 106 号ツルハドラッグ前



■ 出合い橋の JA 前

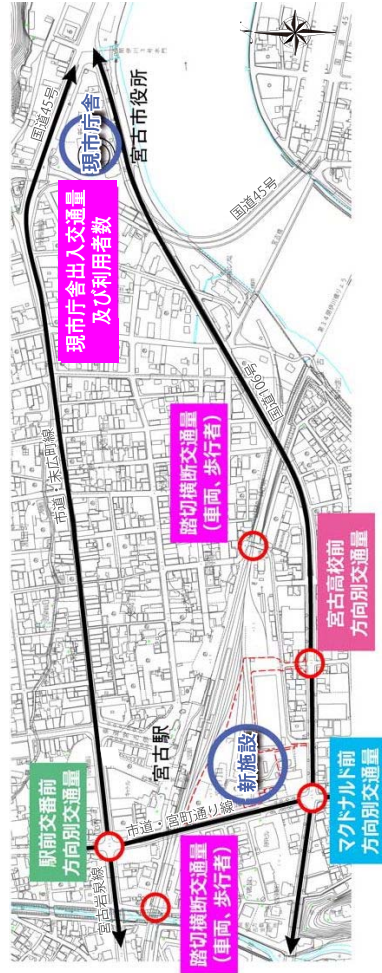
現市庁舎も国道 106 号を利用した交通がみられますが、新施設においては、交流センターなど新たな機能の導入なども予想され、交通渋滞が高まることが予想されます。

このようなことから、本調査は新施設周辺の主要交差点の交通量の現状を把握するとともに、新施設完成後の交通量の推計を行い、主要交差点において、その影響度の予測・評価を目的とするものです。

また、現市庁舎への出入交通量及び利用者数、新施設周辺の踏切横断交通量（車両、歩行者）の調査も実施し、新施設建設に伴う交通処理の検討資料として活用しました。

2. 交通処理検証のための調査

以下の地点で、主要交差点の方向別交通量や現市庁舎への出入交通量、踏切横断交通量の調査を実施しました。



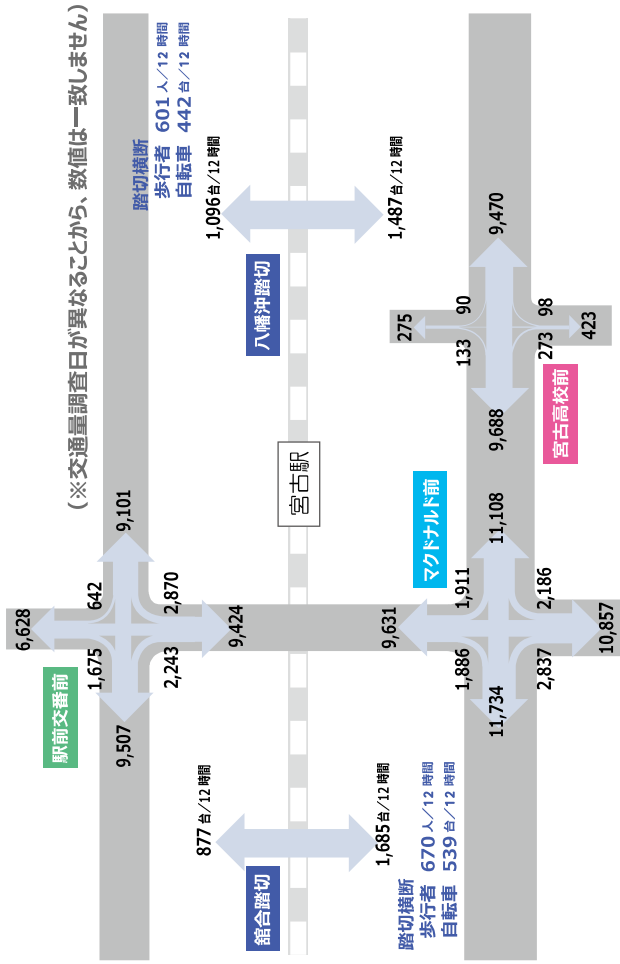
◆ 実施日（調査時間 7:00 ~ 19:00）

- ・ マクドナルド前、宮古高校前 平成 25 年 1 月 23 日（木）晴れ
- ・ 駅前交番前、現市庁舎、踏切 平成 26 年 10 月 29 日（木）晴れ

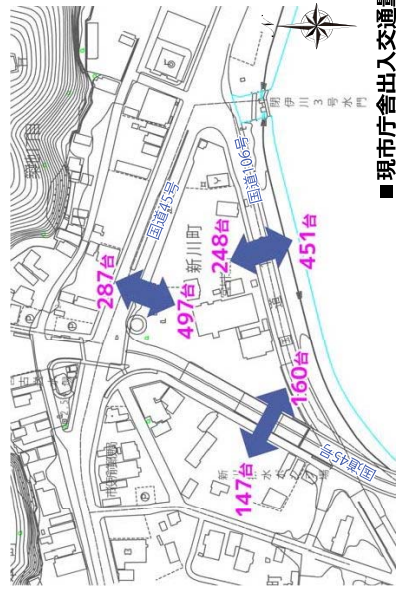
3. 調査結果

主要交差点及び踏切横断交通量の 12 時間調査を行ったところ、下図のような結果となりました。国道 106 号は約 10,000（台／12 時間）・駅前交番前付近の宮古岩泉線は約 9,500（台／12 時間）の交通量があり、道路容量以上の交通量の集中や右折車両による渋滞などの要因により、朝夕に一時的な滞留が見られました。

また、踏切横断交通量は、八幡沖踏切 2,583（台／12 時間）、歩行者は 601（人／12 時間）、館合踏切 2,562（台／12 時間）、歩行者は 670（人／12 時間）でした。



また、現市庁舎への出入交通量は約 1,700（台／12 時間）ありました。国道 45 号側からは、宮古岩泉線との交差点からの近接性や短い右折車線長等の制約があります。多くの交通が進入します。しかし、多くの車両は比較の出やすい国道 106 号側の出口を利用していただくことができます。



■ 現市庁舎出入交通量

4. 新施設への出入交通量の見込み

新施設に配置する施設に対する出入交通量を推計すると、1日当たり約 2,400 台の交通量が発生します。なお、市庁舎の出入交通量は現市庁舎の出入交通量とし、他の施設は「大規模開発地区区関連交通計画マニュアル・改訂版（平成26年6月）」に基づいて推計しました。

施設名	発生集中台数 (台/日)		ピーク時 (台/h)	
	平日	休日	平日	休日
防災センター		132		15
市庁舎		1,790		205
交流センター		96		11
保健センター		169		113
多目的ホール		203		23
その他会議・研修等		469		147
小計		28		3
荷捌き関連車両(大型車)		2,419		370
合計		2,419		121

新施設に出入する交通量が、周辺交差点に与える影響について2つのケースを想定して検証しました。
交差点への影響度は、1日の中で最も交通量が多くなる1時間交通量を抽出(本調査では17:00～18:00)して、交通解析において一般的に行われている「交差点需要率」で評価しました。

【交差点需要率】
単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率で表すものです。値が高くなるほど交差点の混雑が見込まれ、一般的に0.8ぐらいで部分的に渋滞が発生し、0.9を超えると信号が一巡しても車をさばきなくなるといわれています。

【ケース1 現況】

○現在の交差点状況に基づいて算定しました。

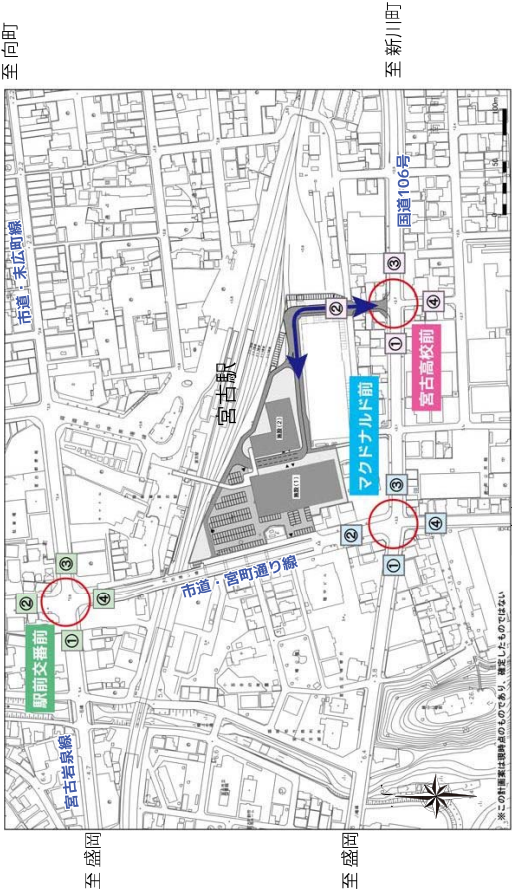
【ケース2 計画案】

- 現在基本となっている計画案に基づいて算定しました。
- 宮古高校前交差点には、右折レーンの設置と信号処理を前提としました。

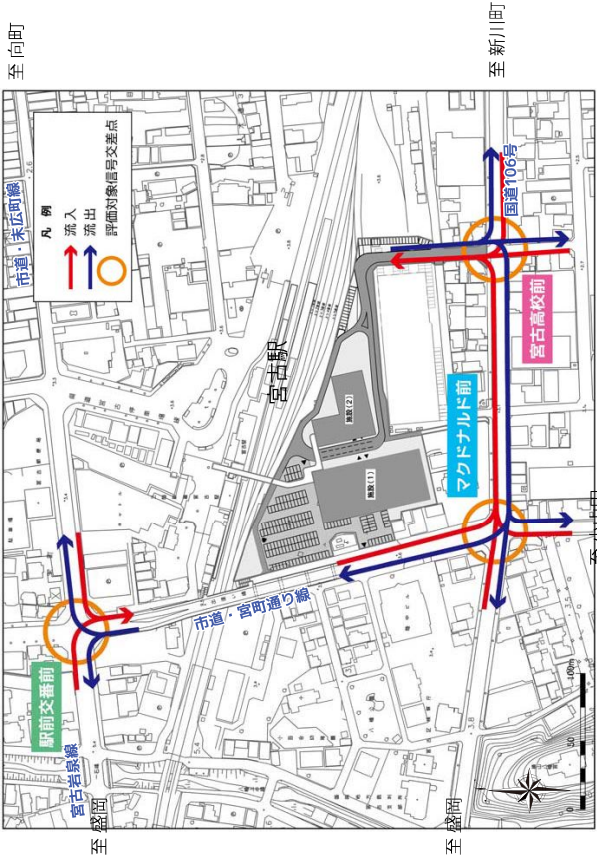
5. 交通処理の検証

(1)影響検討交差点
検証を行う交差点は以下の3ヶ所としました。

- 宮古高校前交差点
- マクドナルド前交差点
- 駅前交番前交差点



■検討対象交差点位置図



■アクセス動線図：計画案(ケース2)

(2)検証結果

現況の交差点交通量に、開発地からの出入り交通量を加算しても、交差点需要率は0.9を下回り適正な水準値を示しています。なお、右折交通に着目すると、現在一時的な混雑が発生している『マクドナルド前』、『駅前交番前』では1サイクルあたり1台程度の負荷であり、元々右折車線があることから交差点へ及ぼす影響は軽微であると想定されます。また、『宮古高校前』は1サイクルあたり2台～3台程度であり、元々右折交通が少なく、新たに右折車線を整備することから、新施設による影響は軽微であると想定しております。

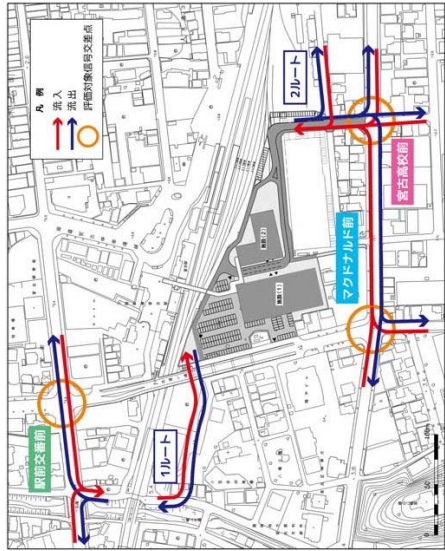
	宮古高校前		マクドナルド前		駅前交番前	
	現況	計画案	現況	計画案	現況	計画案
ピーク時交通量 (17:00～18:00)						
ピーク時交通量は、道路において1日の中で最も交通量の多い1時間の値に市庁舎の利用時間帯で最も大きい値を加算したもので、それぞれのピーク時間は異なります。						
交差点需要率	0.282(<0.900)	0.381(<0.900)	0.457(<0.900)	0.486(<0.900)	0.438(<0.900)	0.476(<0.900)
1サイクル当たりの平均右折車両台数(台/サイクル)	0.3	0.3	3.9	3.9	3.5	4.2
0.0 1.5台以上増加	0.1	2.9	2.5	2.5	3.5	3.5
0.0 1.5台未満増加	0.0	1.7	2.3	3.7	0.2	0.2
※信号の1サイクル：一つの信号灯が、青→黄→赤と一巡することを言います。	0.1	0.1	2.1	2.6	6.2	7.2
交差点増加率	35%			6%		9%
交差点増加率						

●色の数字は、現況交通量に対して、新施設建設に伴って増加する方向別交通量を示しています。

参 考

別のアクセスルートを設定した場合の検証結果

【ケース3 複数出入案(2ルート)】



■アクセス動線図：複数出入案(ケース3)

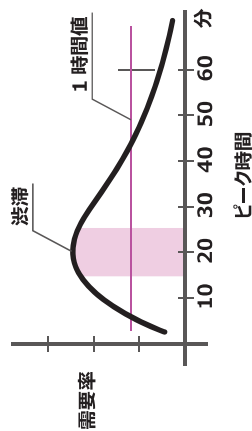
	宮古高校前		マクドナルド前		駅前交番前	
	現況	複数出入案	現況	複数出入案	現況	複数出入案
ピーク時交通量 (17:00～18:00)						
ピーク時交通量は、道路において1日の中で最も交通量の多い1時間の値に市庁舎の利用時間帯で最も大きい値を加算したもので、それぞれのピーク時間は異なります。						
交差点需要率	0.282(<0.900)	0.347(<0.900)	0.457(<0.900)	0.478(<0.900)	0.438(<0.900)	0.454(<0.900)
交差点増加率	23%			5%		4%
1サイクル当たりの平均右折車両台数(台/サイクル)	0.3	0.3	3.9	3.9	3.5	3.5
0.0 1.5台以上増加	0.1	1.5	2.5	2.5	3.5	3.5
0.0 1.5台未満増加	0.0	1.6	2.3	2.3	0.2	0.2
	0.1	0.1	2.1	2.6	6.2	6.2

●色の数字は、現況交通量に対して、新施設建設に伴って増加する方向別交通量を示しています。

6. まとめ

①新施設の供用開始により、宮古高校前の交差点でピーク時に67～111台/時の増加がみられ、その他の交差点では、22台/時～56台/時の増加が見込まれます。なお、現況交通量には現本庁舎利用交通量も含まれています。

②主要交差点においては、現在も一時的な渋滞が発生しており、交差点需要率による評価と異なる点がありますが、交差点需要率はピークの1時間で評価しており、渋滞の発生時間帯が1時間に満たないために平準化された数値となっていることが考えられます。



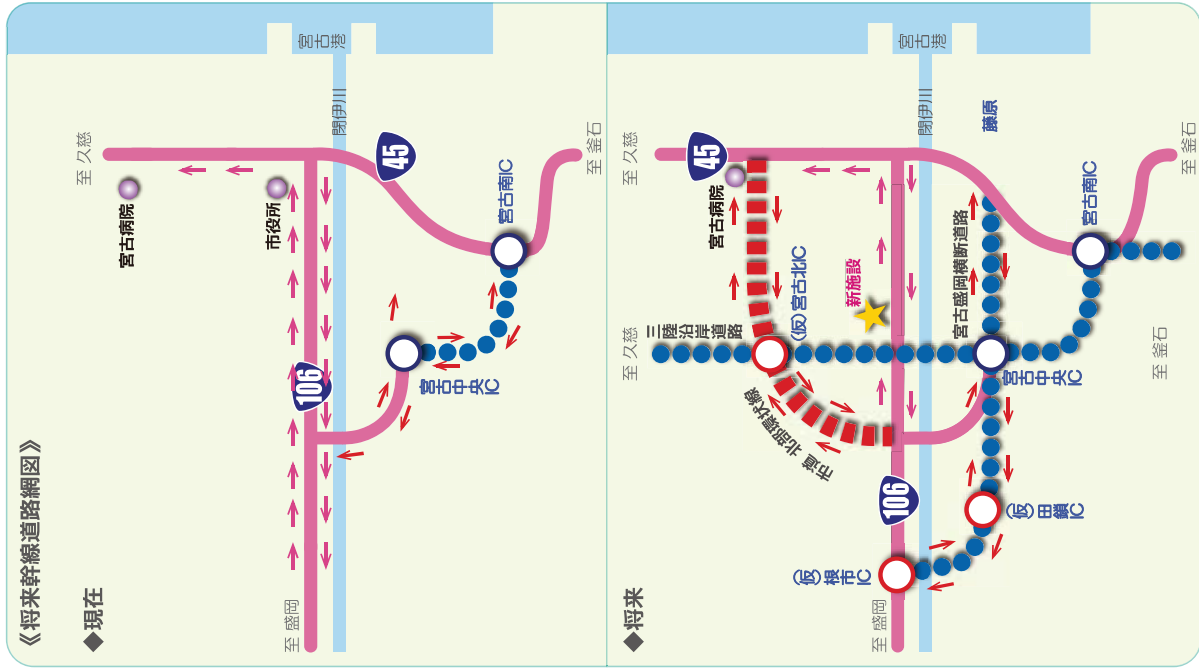
③平常利用時の新施設へのアクセス検討案で周辺の交差点に大きく影響することはありませんが、別のルートを設定して比較してみると、現計画案に対して若干の改善はみられましたが、踏切踏切から新施設に至るルートについては、その整備費に見合うほどの効果はありませんでした。また、市道ハ幡沖鉄道踏切については、中心商業地からアクセスが比較的容易なことからその整備について、引き続き検討を深めていきます。

④拠点エリアの交通量推計によれば、東側のメインルート及び宮古高校前交差点での交通処理において十分に対応可能な数値と言えます。ただし、災害時における緊急車両等の流入や、平常時の公用車及びバックヤードへの業務用車両の流入が、施設利用の一般利用車両と交錯しないよう、メインルート以外にもアクセス路を確保しておく必要があります。また、災害時に活用できる可能性がある民地の活用についても、災害協定を締結するなどの方法により活用方法の検討を進めていく必要があります。

⑤現状において、国道106号などで朝夕に一時的な滞留が発生しており、ピーク時渋滞長は450mにもなります。調査結果からは渋滞原因として右折車が原因とは言えず、歩行者との干渉、復興関連工事による大型車の混在、交差点形状ほか自然渋滞の可能性が高いと言えます。この渋滞に関する問題は、拠点整備とは別の課題として捉える必要があります。通過交通量については、今後、宮古市周辺の広域道路ネットワークが整備されることにより、大きな改善が予想されます。

参考

今後、北部環状線・三陸沿岸道路・宮古盛岡横断道路開通後においては、市街地内への通過交通等が減少するなどの要因から、国道106号のマクナルド前交差点交通量も減少するなど、市街地内交通の円滑化が見込まれます。



宮古市中心市街地拠点施設整備事業に係る市民アンケート調査報告書＜概要版＞

1. 調査概要

(1) 調査目的

調査は、平成26年度に予定している宮古市中心市街地拠点施設整備事業の基本計画の策定にあたっての基礎資料とするため、市役所の利用実態や利用に関する市民の満足度及びニーズを把握することを目的として実施するものである。

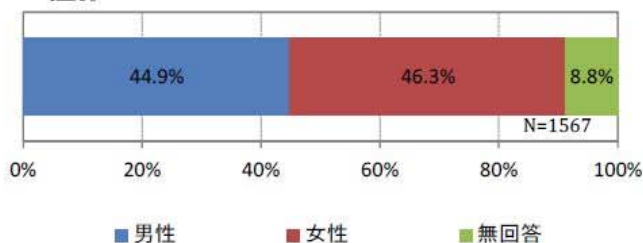
(2) 調査概要

実施期間	平成26年8月15日（金）～8月31日（日） （FAX・窓口提出は、平成26年9月1日（月）着分まで）
調査方法	調査票は、「広報みやこ（平成26年8月15日号）」で全世帯配布。 回収は、郵送・FAX・窓口提出のいずれか。
調査対象	①全世帯（8月1日現在：24,261世帯）②来庁者（本庁舎、総合事務所・出張所の住民窓口）
回収数（率）	①1,056人（世帯、4.35%） ②511人 合計 1,567人

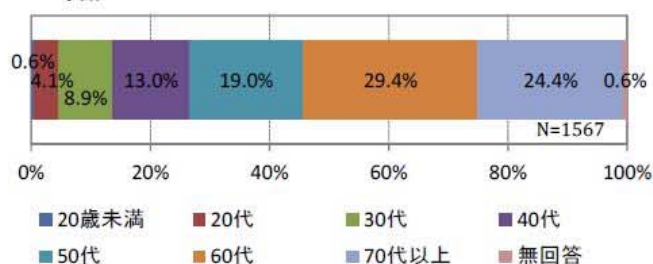
2. 調査結果

(1) 回答者の属性

■性別



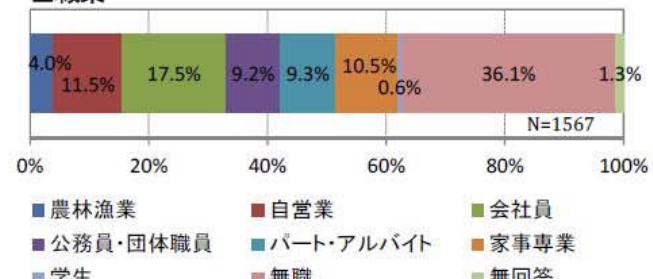
■年齢



■住まい



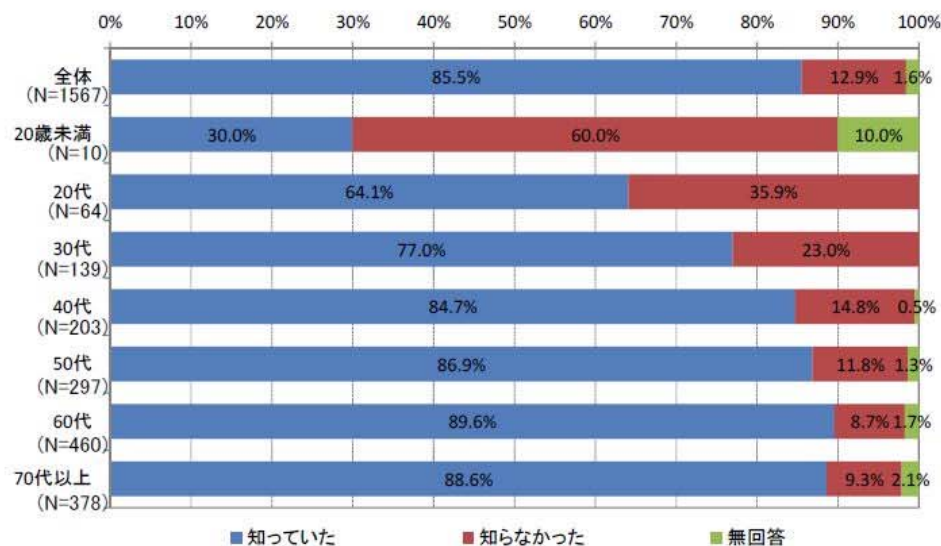
■職業



(2) 整備計画の認知度

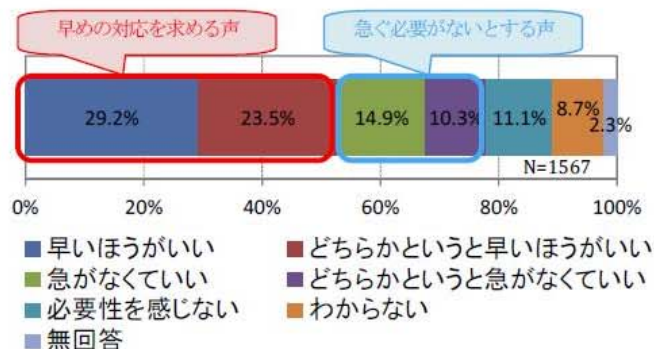
○「知っていた」と答えた人が85.5%となっており、整備計画に関する認知度は高い。

○おおよその傾向として、年代が高くなるにつれて、認知度は高くなっている。



(3) 拠点施設の整備について

○「早いほうがいい」と答えた人の割合が29.2%、「どちらかという早いほうがいい」と答えた人の割合が23.5%と、早めの対応を求める声が5割(52.7%)を超えている。また、「急がなくていい」「どちらかという急がなくていい」と答えた人は25.2%、「必要性を感じない」と答えた人は11.1%となっている。

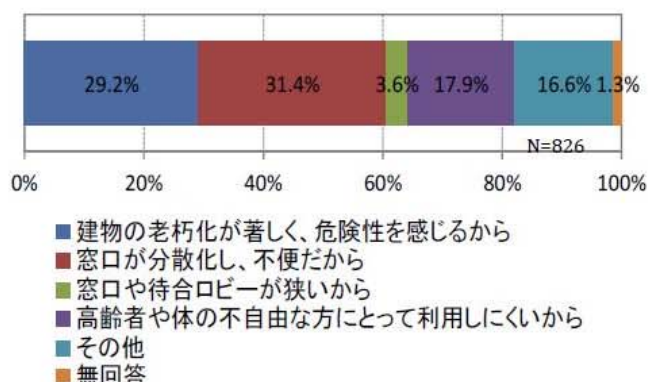


(4) 早めの対応を求める理由について

○早めの対応を求める826人(52.7%)のうち、理由として「窓口が分散化し、不便だから」と答えた人の割合が31.4%と最も高く、次いで、「建物の老朽化が著しく、危険性を感じるから」と答えた人が29.2%となっている。

○「その他」としては、「駅から近く交通の便が良い方がよい」「現庁舎は海に近く危険を感じるので早く安全な場所に整備してほしい」等の意見が見られた。

■早めの対応を求める理由

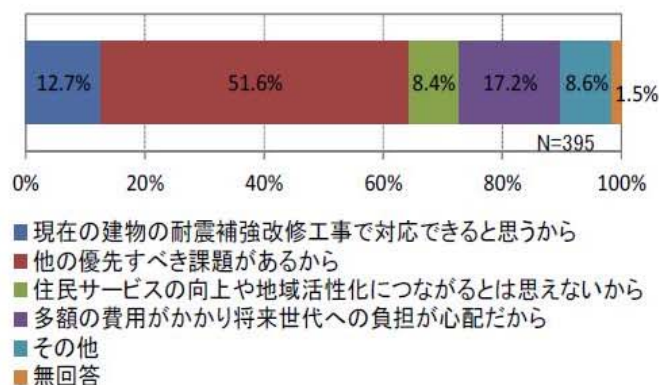


(5) 急ぐ必要がないとする理由について

○「急がなくていい」と答えた395人(25.2%)のうち、理由として「他の優先すべき課題があるから」と答えた人の割合が51.6%と最も高く、次いで、「多額の費用がかかり将来世代への負担が心配だから」と答えた人が17.2%となっている。

○「その他」としては、「もっと時間をかけて議論してほしい」等の意見が見られた。

■急ぐ必要がないとする理由

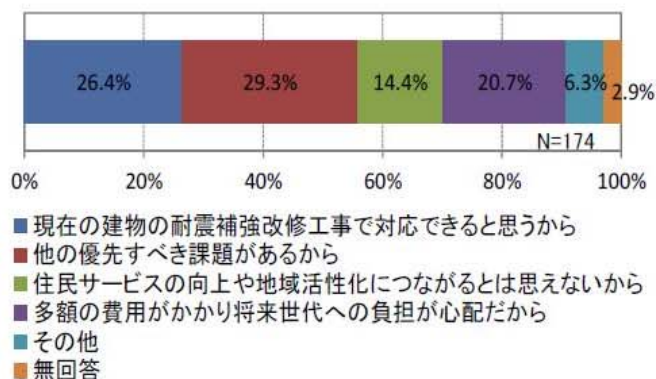


(6) 必要性を感じないとする理由について

○「必要性を感じない」と答えた174人(11.1%)のうち、理由として「他の優先すべき課題があるから」と答えた人の割合が29.3%と最も高く、次いで、「現在の建物の耐震補強改修工事で対応できると思うから」と答えた人が26.4%となっている。

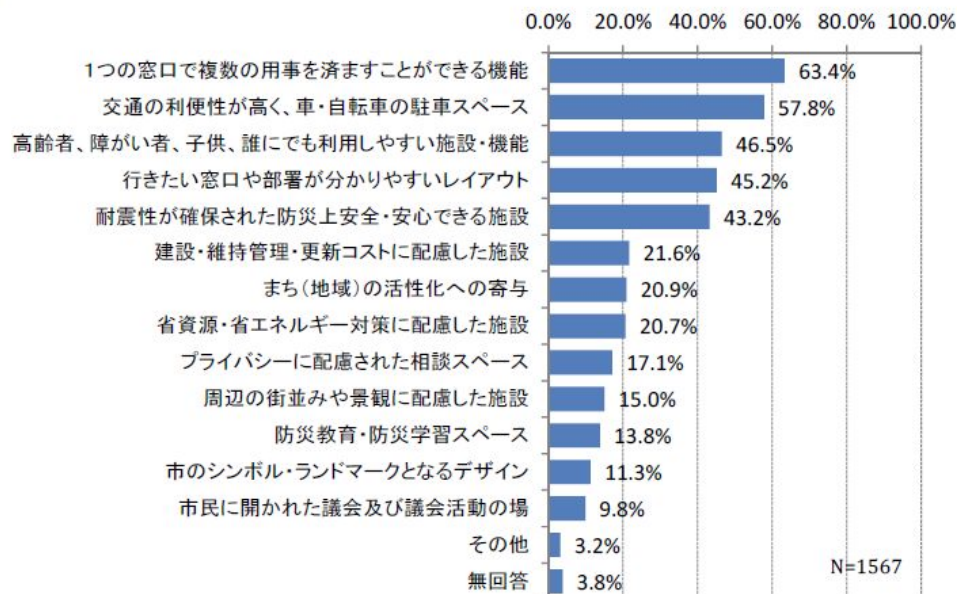
○「その他」としては、「移動する場所が良くないと思うから」等の意見が見られた。

■必要性を感じないとする理由



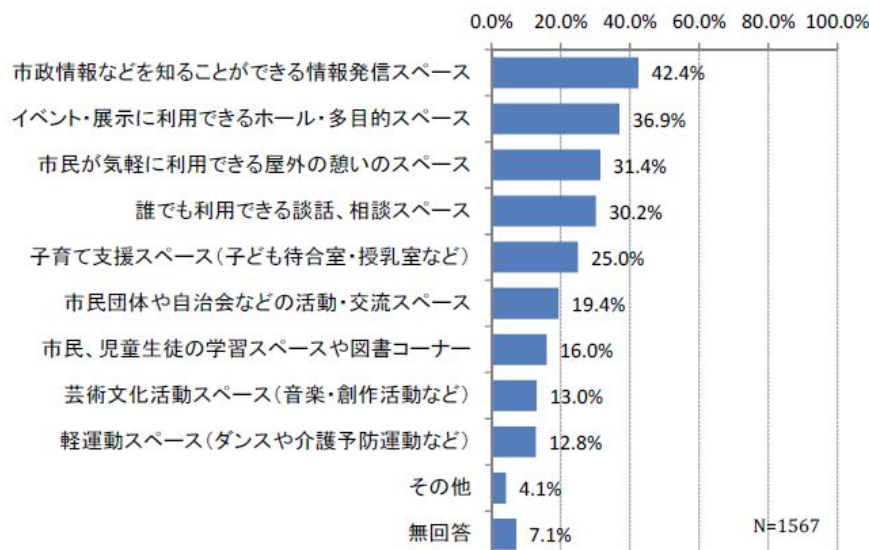
(7) 拠点施設の整備で重要視すること

- 拠点施設の整備では、「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を重要視すると答えた人の割合が63.4%と最も高く、次いで、「交通の利便性が高く、車・自転車の駐車スペース」と答えた人が57.8%、「高齢者、障がい者、子供、誰にでも利用しやすい施設・機能」と答えた人の割合が46.5%と続いている。
- 「その他」としては、「駅との一体化・コンパクトシティの確立」「窓口サービスの向上」「避難場所の確保」他、「必要がない、現状で十分」「仮設の早期解消が先」等の意見が見られた。
- 年齢別にみると、「20歳未満」「20代」を除いたいずれの年代においても、重要視する項目として「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を挙げている人の割合が最も高い。
- 地区別にみると、「新里地区」、「川井地区」で、「交通の利便性が高く、車・自転車の駐車スペース」を挙げている人の割合が最も高い他は、すべての地区で、「1つの窓口で複数の用事を済ませることができる機能」を重要視すると答えた人が最も高い。



(8) 拠点施設を整備する上で必要な新たな施設（機能）

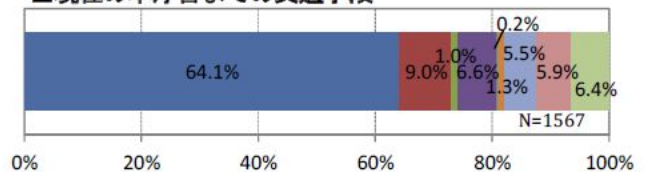
- 拠点施設の整備では、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を必要な新たな施設（機能）と答えた人の割合が42.4%と最も高く、次いで、「イベント・展示に利用できるホール・多目的スペース」と答えた人が36.9%、「市民が気軽に利用できる屋外の憩いのスペース」と答えた人が31.4%となっている。
- 「その他」としては、「必要最小限にすべき」という意見が見られた。
- 年齢別にみると、「20代」「30代」では、「子育て支援スペース（子ども待合室・授乳室など）」を挙げている人の割合が最も高く、40代以降では、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を挙げている人の割合が最も高い。
- 地区別にみると、「重茂地区」で、「子育て支援スペース（子ども待合室・授乳室など）」を挙げている人の割合が最も高い他は、すべての地区で、「市政情報などを知ることができる情報発信スペース」を必要な新しい施設（機能）として挙げた人の割合が最も高い。



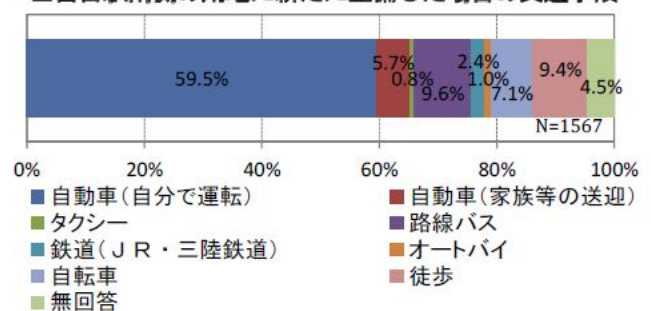
(9) 交通手段

- 現在の本庁舎までの交通手段は、「自動車（自分で運転）」の割合が 64.1%と最も高く、「自動車（家族等の送迎）」(9.0%) を含めると 7 割以上 (73.1%) が自動車を使用している。
- 宮古駅南側の用地に整備した場合も、「自動車（自分で運転）」の割合が 59.5%と最も高く、「自動車（家族等の送迎）」(5.7%) を含めると 6 割以上 (65.2%) が自動車を使用すると答えている。
- 「公共交通（鉄道・バス・タクシー）」の割合は、現在の交通手段としている人が 7.8%、新たに宮古駅南側に施設を整備した場合は、12.8%となっている。

■現在の本庁舎までの交通手段



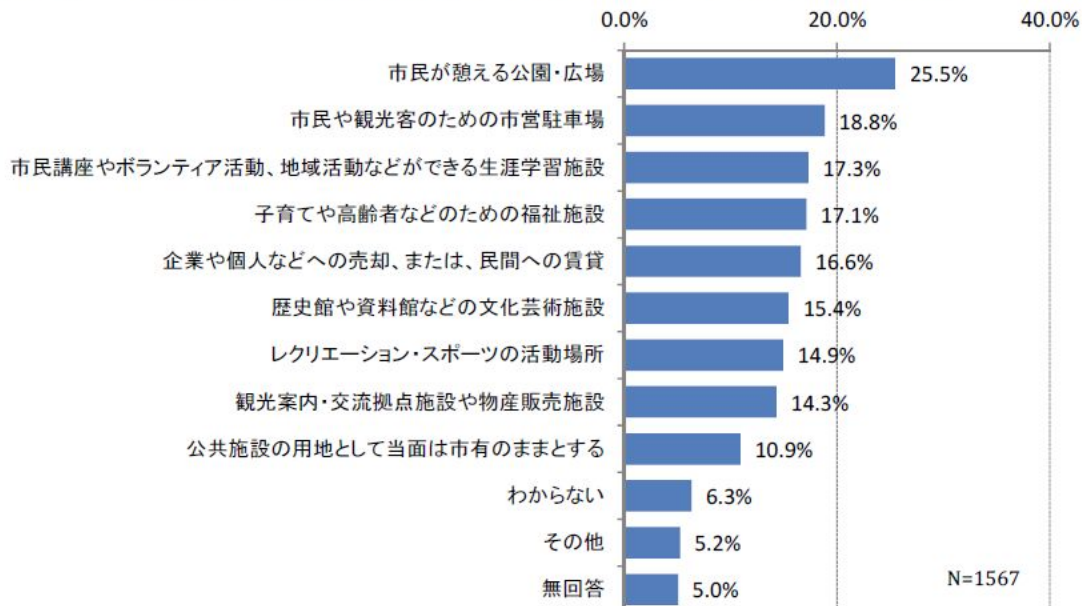
■宮古駅南側の用地に新たに整備した場合の交通手段



(10) 拠点施設を整備し本庁舎や分庁舎を解体する場合の用地活用について

- 「市民が憩える公園・広場」と答えた人の割合が 25.5%と最も高く、次いで、「市民や観光客のための市営駐車場」と答えた人が 18.8%となっている。ただし、その他いずれの回答にも大差はない。
- 「その他」としては、「津波避難ビルとして残すべき」「道の駅とする」等の意見が見られた。
- 年齢別にみると、「市民が憩える公園・広場」はいずれの年代でも上位 3 項目に入っている。

(複数回答)



(11) 拠点施設の整備についての意見・提案

- 「現状のままでよい、他に優先するものがある」という意見が 72 人と最も多く、次いで、「市民へ広報や説明する機会を増やし、十分に議論をして決めてほしい」が 35 人、「駐車スペースを充実させてほしい」が 34 人、「渋滞対策などを考えて道路の整備もしてほしい」が 33 人、「防災に力を入れてほしい」が 30 人と続いている。

	回答数
現状のままでよい、他に優先するものがある	72
市民へ広報や説明する機会を増やし、十分に議論して決めてほしい	35
駐車スペースを充実させてほしい	34
渋滞対策などを考えて道路の整備もしてほしい	33
防災に力を入れてほしい	30
市役所等の移転について賛成。早期完成を期待している	26
地域活性化、人口流出を防ぐ対策が必要	26
施設のデザインや機能面を工夫したものにしてほしい	22
公共交通を充実させてほしい	19
財政面に配慮して整備に多額の費用はかけないでほしい	18
公園や運動施設を作ってほしい	18
パチンコ店の近くは景観上良くない。店を移動してほしい	17
拠点施設の集約などを行い、利用しやすくしてほしい	17
子育てや高齢者や障がい者に配慮した施設にしてほしい	17
移転先を宮古駅南側以外の場所にしてほしい	14
市役所と駅の間に通路を作るなど、駅と繋げてほしい	13
拠点施設を集約しなくてよい。遠方の施設も充実させてほしい	8
アンケートの質問自体に疑問がある	7
歴史館や資料館などの文化芸術施設を作ってほしい	4
その他	97

N=527

資料 17 事業の推進方針及び推進体制

宮古市中心市街地拠点施設整備事業の推進方針

(事業推進の基本姿勢)

第1 本事業は、市政の重要な課題の解決を目指すものであることから、宮古市自治基本条例第4条（参画と協働の原則）、第14条第2項及び第3項（市政運営の原則）の規定に基づき、市民とまちづくりの目標を共有し推進するものとする。

(事業推進の基本的考え方)

第2 本事業の推進にあたっての基本的な考え方は、次のとおりとする。

- 1 「宮古市総合計画（平成23～31年度）」、「新市建設計画（平成17～26年度）」「新市基本計画（平成22～31年度）」並びに「宮古市東日本大震災復興計画（平成23～31年度）」のほか、関連する各種計画等との整合を図り推進する。
- 2 東日本大震災を教訓に、①防災や災害対応の拠点を見直すこと、②人口減少社会の進行の中で将来的な行政コストを見据えた適切な行政機能と規模を検討すること、③復興後のまちづくりにおける新たな市民サービスに対応していくこと、を拠点施設整備の主眼として検討する。
- 3 「宮古市公共施設再配置計画」に先行して「被災公共施設再配置方針」を基本として推進する。
- 4 基本構想及び基本計画等の事業計画の検討にあたっては、宮古市参画推進条例の規定に基づき、市民の参画により立案する。

(事業の推進体制)

第3 事業の推進体制は、次のとおりとする。（別紙、推進体制図のとおり）

- 1 市民参画
 - (1) 基本構想及び基本計画等の基本的事項を検討するため、宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会を設置する。
 - (2) 市民の意識を把握するため、市民意識調査を実施するとともに、計画等の検討経過について公表するものとする。
- 2 庁内体制
 - (1) 基本構想及び基本計画等の原案検討のため、宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会を設置する。
 - (2) 基本構想及び基本計画等の基本的事項の検討及び調整は、事業を所管する関係部局等と連携して行うものとする。特に、津波復興拠点整備事業の担当課（都市計画課）及び建築事業総括の担当課（建築住宅課）との連携を密にする。

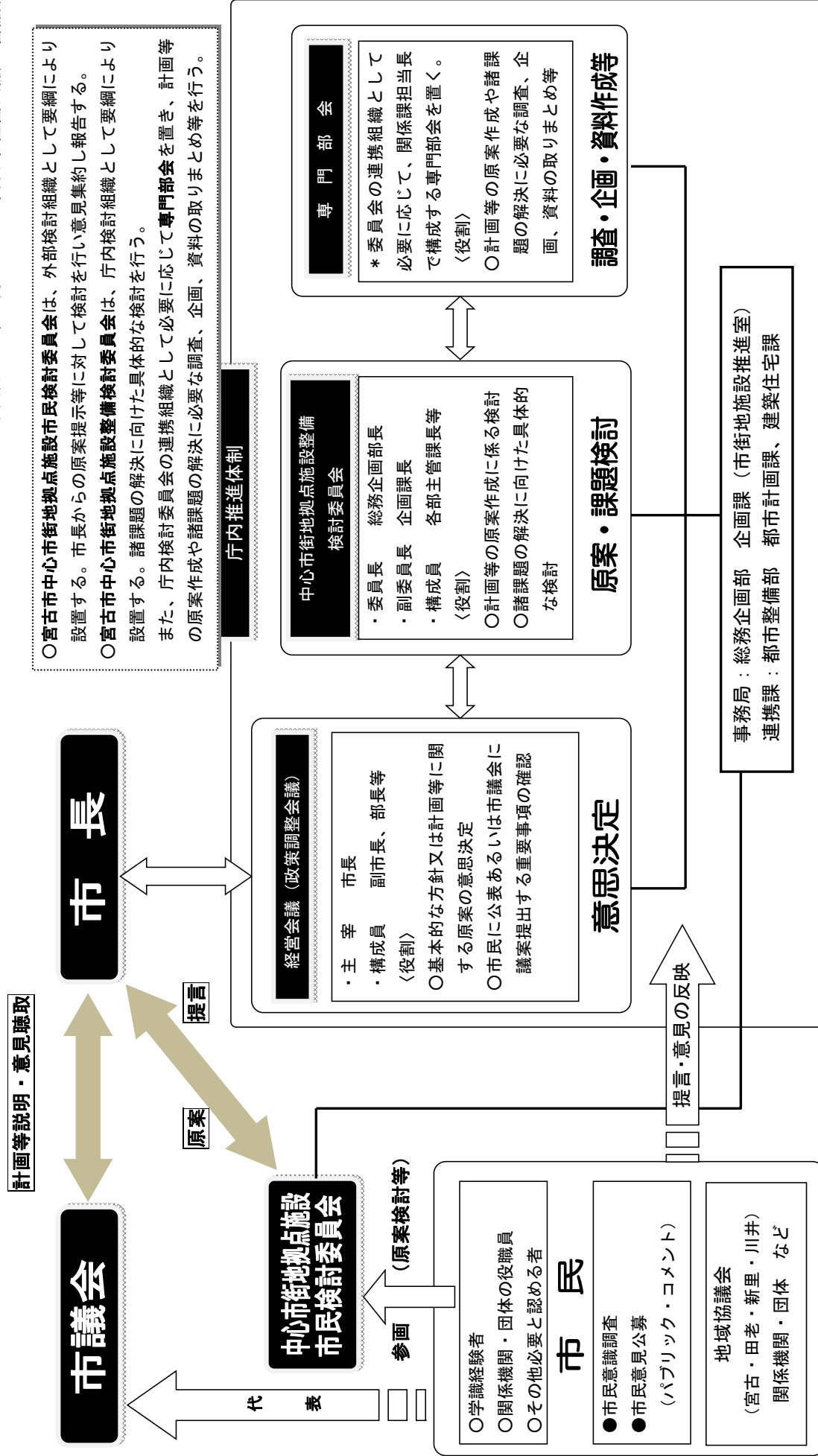
(事業推進の手順)

第4 基本構想及び基本計画等の策定の手順は、次のとおりとする。

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会の検討事項（所掌事項）の報告に基づき、宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会での原案作成及び宮古市経営会議における審議決定により、市民の参画及び議会との意見交換を経て、市長決裁により策定する。

宮古市中心市街地拠点施設整備事業 推進体制図

(平成26年4月25日 宮古市経営会議 審議決定)



資料 18 事業の検討組織

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会要綱

平成26年5月28日

告示第103号

(設置)

第1条 宮古市中心市街地拠点施設整備事業に関する基本構想及び基本計画について検討するため、宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、委員25人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係機関及び各種団体の代表者又は職員
- (3) 公募による者
- (4) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、第1条の規定による検討が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、市長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務企画部企画課において処理する。

(補則)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この告示は、平成26年5月28日から施行する。

(要綱第2条関係)

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会委員名簿

No.	選出区分	所 属 名 称	職 名	氏 名
1	学識経験者	弘前大学教育学部	教授	きたはら けいじ 北原 啓司
2	関係機関	宮古商工会議所	会頭	はなさか こうたろう 花坂 康太郎
3	関係機関	一般社団法人宮古観光文化交流協会	会長	さわだ かつじ 澤田 克司
4	関係機関	社会福祉法人宮古市社会福祉協議会	会長	あかぬま まさきよ 赤沼 正清
5	関係機関	一般社団法人陸中宮古青年会議所	青少年交流委員会委員長	ふとながね りえこ 太長根 理恵子
6	関係機関	宮古市芸術文化協会	会長	おの でら ふみお 小野寺 文雄
7	関係機関	一般社団法人宮古医師会	理事	うちだ えいこ 内田 瑛子
8	各種団体	宮古地域自治区（重茂漁業協同組合）	（女性部長）	もりあい としこ 盛合 敏子
9	各種団体	田老地域自治区（田老地域協議会）	（会長）	はやしもと たくお 林 本 卓男
10	各種団体	新里地域自治区（新里地域協議会）	（会長）	なかの まさたか 中野 正隆
11	各種団体	川井地域自治区（川井地域協議会）	（会長）	いとう かずえい 伊藤 和榮
12	各種団体	宮古市消防団	団長	やました しゅうじ 山下 修治
13	各種団体	末広町商店街振興組合	理事長	さ こう えいいち 佐香 英一
14	各種団体	中央通商店街振興組合	理事長	たかはし まさゆき 高橋 雅之
15	各種団体	宮古市町内自治会連合会	会長	よこた だいじゅ 横田 大樹
16	各種団体	宮古市地域婦人団体協議会	会長	すずき みつこ 鈴木 光子
17	各種団体	宮古市PTA連合会	理事	うえの けいこ 上野 けい子
18	各種団体	昭和通りのおかみさんもてなしたい	隊長	さ さ き けいこ 佐々木 慶子
19	公 募			いわた ひろこ 岩田 博子
20	公 募			こんの ゆう 金野 侑
21	その他	東日本旅客鉄道(株)盛岡支社宮古駅	宮古駅長	ひらふじ かず し こう 平藤 一氏幸
22	その他	(株)三陸鉄道	代表取締役社長	もちづき まさひこ 望月 正彦

(平成26年7月22日設置、敬称略)

宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会要綱

(設置)

第1条 宮古市中心市街地拠点施設整備事業（以下「整備事業」という。）を総合的かつ効果的に推進するため、宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 整備事業の計画等の策定に係る検討に関すること。
- (2) その他、整備事業の計画等の策定に関し必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は総務企画部長、副委員長は企画課長をもって充てる。

3 委員は、別に定める職員をもって充て、委員長が指名する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員長は、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

(専門部会)

第6条 計画等の策定に係る検討に必要な調査、企画、資料の取りまとめ等を行わせるため、委員会に専門部会（以下「部会」という。）を置き、各部会の名称及び構成は、別に定める。

2 部会は、市の関係課担当長、その他必要な職員で構成する。

3 部会に、部会長及び副部会長を置く。

4 部会は、必要に応じて新たに設置あるいは廃止することができる。

(庶務)

第7条 委員会の事務局は、総務企画部企画課に置く。

附 則

1 この要綱は、平成26年5月23日から施行する。

宮古市中心市街地拠点施設整備事業

(委員会要綱第3条関係) 宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会構成員

No.	選出区分	所属・職名	氏 名
1	委員長	総務企画部長	佐藤 廣昭
2	副委員長	総務企画部 企画課長	山崎 政典
3	委 員	総務企画部 総務課長	野崎 仁也
4	委 員	総務企画部 復興推進課長	滝澤 肇
5	委 員	総務企画部 財政課長	菊池 廣
6	委 員	市民生活部 総合窓口課長	大森 裕
7	委 員	市民生活部 生活課長	佐藤 裕子
8	委 員	保健福祉部 福祉課長	松舘 仁志
9	委 員	保健福祉部 介護保険課長	三浦 吉彦
10	委 員	保健福祉部 健康課長	松舘 喜久子
11	委 員	産業振興部 産業支援センター所長	中嶋 良彦
12	委 員	産業振興部 商業観光課長	下島野 悟
13	委 員	都市整備部 建設課長	箱石 文夫
14	委 員	都市整備部 都市計画課長	中村 晃
15	委 員	都市整備部 建築住宅課長	松下 寛
16	委 員	危機管理監 危機管理課長	戸由 忍
17	委 員	教育委員会事務局 総務課長	中嶋 巧
18	委 員	教育委員会事務局 学校教育課長	妻田 篤
19	委 員	教育委員会事務局 生涯学習課長	伊藤 重行
20	委 員	上下水道部 経営課長	飯岡 健志
21	委 員	議会事務局 事務局次長	佐々木 純子

(委員会要綱第6条関係) 宮古市中心市街地拠点施設整備検討委員会専門部会構成員

No.	部会名	構成課所等名 (◎部会長、○副部会長)	備 考
1	地域防災部会	◎危機管理課、○消防対策課、生活課、上下水道部施設課	防災拠点施設、防災システム
2	市民協働部会	企画課、◎生活課、福祉課、介護保険課、商業観光課、○生涯学習課	地域活力創出拠点施設
3	保健福祉部会	○福祉課、介護保険課、◎健康課	被災公共施設機能回復
4	市民窓口部会	○税務課、◎総合窓口課、生活課、福祉課、健康課	行政機能集約・効率化
5	建設環境部会	○復興推進課、環境課、◎建設課、都市計画課、建築住宅課、上下水道部施設課、財政課	拠点施設建設・拠点環境整備
6	議会協働部会	◎議会事務局、○企画課	議会及び議会事務局機能
7	施設活用部会	企画課、◎財政課、産業支援センター、○商業観光課、都市計画課	現有施設及び跡地利活用
8	総務情報部会	◎総務課、企画課、復興推進課、○財政課、都市計画課、教育委員会総務課、学校教育課	総合調整 (行政機能集約・効率化)、情報システム
*	その他	必要に応じて、新たな部会を置くことができる。	

(平成26年9月5日現在、必要に応じて、委員長が指名あるいは設置する。)

資料 19 主な取組経過

市民関係

時 期	会議等の名称	内 容
平成 26 年 4 月 23 日	中心市街地復興 まちづくり事業 説明会	まちづくり検討会のメンバーを対象に、津波復興拠点整備事業の概要説明
平成 26 年 5 月 20 日	宮古商工会議所 議員懇談会	中心市街地地区津波復興拠点整備事業等の まちづくり事業について説明
平成 26 年 5 月 26 日 ・27 日・29 日・30 日	市民説明会 (宮古、田老、新 里、川井の 4 会 場)	中心市街地地区津波復興拠点整備事業につ いて説明
平成 26 年 7 月 8 日	市民説明会	中心市街地地区津波復興拠点整備事業・都市 計画案について説明
平成 26 年 8 月 5 日	都市計画審議会	宮古都市計画一団地の津波防災拠点市街地 形成施設(中心市街地地区)の決定について 審議
平成 26 年 8 月 15 日 ～9 月 1 日	市民アンケート 調査	市役所の利用実態及び利用に関する市民の 満足度やニーズの把握
平成 26 年 11 月 29 日	第 1 回市民ワー クショップ	講演「まち育てのススメ」弘前大学北原教授 ワークショップ「中心市街地地区の活性化の アイデア」
平成 26 年 12 月 20 日	第 2 回市民ワー クショップ	ワークショップ「中心市街地地区の活性化 (まち育て) のアイデア」
平成 27 年 1 月 24 日	第 3 回市民ワー クショップ	ワークショップ「中心市街地地区の活性化 (まち育て) のアイデア」
平成 27 年 2 月 15 日 ～3 月 6 日	パブリックコメ ント	基本計画(案)に対しての市民意見公募
平成 27 年 2 月 16 日 ～2 月 27 日	市民説明会 (本庁舎、崎山、 花輪、津軽石、重 茂、田老、新里、 川井の 8 会場)	基本計画(案)について説明
平成 27 年 2 月 21 日	第 4 回市民ワー クショップ	ワークショップ「中心市街地地区の活性化 (まち育て) のアイデア」

宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会

時 期	会議等の名称	検 討 課 題
平成 26 年 7 月 22 日	第 1 回市民検討委員会	1 委嘱状交付 2 委員長、副委員長の選任 3 基本構想（案）について 4 基本計画の策定について
平成 26 年 8 月 27 日	第 2 回市民検討委員会	基本構想（案）について
平成 26 年 10 月 17 日	第 3 回市民検討委員会	1 基本構想（案）について 2 市民アンケート調査の結果について
平成 26 年 11 月 19 日	第 4 回市民検討委員会	1 基本計画（骨子）について 2 市民ワークショップの開催について
平成 26 年 12 月 19 日	第 5 回市民検討委員会	基本計画（案）について
平成 27 年 1 月 23 日	第 6 回市民検討委員会	基本計画（案）について
平成 27 年 2 月 12 日	第 7 回市民検討委員会	基本計画（案）について

議会関係

時 期	会議等の名称	内 容
平成 25 年 10 月 3 日	議員全員協議会	事業の目的、進め方（都市計画決定、用地取得、施設整備等）を説明
平成 26 年 3 月 12 日	議員全員協議会	都市計画区域設定の見直し、施設の現状と課題及び整備の基本的な考え方を説明
平成 26 年 6 月 13 日	議員全員協議会	事業の推進方針、基本構想及び基本計画の策定方針、市民検討委員会の設置方針、市民アンケート調査の実施方針について説明
平成 26 年 11 月 26 日	議員全員協議会	基本構想、基本計画の契約状況等について説明
平成 27 年 2 月 13 日	議員全員協議会	基本計画（案）について説明
平成 27 年 3 月 10 日	議員全員協議会	基本計画（案）について説明

庁内関係

時 期	会議等の名称	内 容
平成 26 年 4 月 25 日	経営会議	事業の推進方針、推進体制、スケジュール等について審議決定
平成 26 年 6 月 2 日	整備検討委員会	基本構想（案）及び基本計画の策定方針等について検討
平成 26 年 6 月 6 日	経営会議	基本計画等の策定方針（案）を審議
平成 26 年 7 月 4 日	整備検討委員会 専門部会（合同）	専門部会の検討課題、部会の進め方について確認
平成 26 年 7 月 24 日	整備検討委員会	基本構想（案）及び基本計画の策定等について検討
平成 26 年 8 月 7 日・ 8 日	整備検討委員会 専門部会	検討課題の確認及び検討
平成 26 年 8 月 8 日	経営会議	市民検討委員会の開催状況、市民アンケート調査などの確認
平成 26 年 8 月 26 日	整備検討委員会	基本構想（案）について検討
平成 26 年 9 月 3 日・ 4 日	整備検討委員会 専門部会	検討課題の確認及び検討
平成 26 年 10 月 14 日	経営会議	市民アンケート調査の結果、市民参画、基本構想策定に向けた進め方について説明
平成 26 年 10 月 20 日	整備検討委員会	基本構想（案）について検討 市民アンケート調査の結果について
平成 26 年 10 月 28 日・29 日	整備検討委員会 専門部会	検討課題の確認及び検討
平成 26 年 11 月 4 日	経営会議	基本構想の策定について審議
平成 26 年 11 月 27 日	経営会議	基本計画の検討概要、策定スケジュールについて説明
平成 26 年 12 月 2 日	整備検討委員会	基本計画（案）について検討
平成 27 年 1 月 8 日	整備検討委員会	基本計画（案）について検討
平成 27 年 2 月 2 日	経営会議	基本計画（案）について検討
平成 27 年 2 月 5 日	整備検討委員会	基本計画（案）について検討
平成 27 年 3 月 16 日	経営会議	基本計画（案）について検討

宮古市中心市街地拠点施設整備事業

基本計画（案）

平成27年 月 日

《事務局》

岩手県宮古市 総務企画部 企画課

〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号

電話番号 0193-62-2111（代表）

ファクシミリ 0193-63-9114

ホームページ <http://www.city.miyako.iwate.jp/>

電子メール kikaku@city.miyako.iwate.jp